

(仮称)まちづくり構想 福知山

1012 素案

福知山市経営戦略課

「(仮称)まちづくり構想 福知山」 目次

1 はじめに	3
(1)自治基本条例における「市民と市の協働によるまちづくり」と、まちづくり構想の策定	3
(2)まちづくり構想の全体像	3
2 変わる社会	4
3 長期ビジョン(2040年の将来像)	7
(1)2040年に実際に暮らしているであろう、市民の人生を通して将来のまちづくりを考える ～社会環境の変化を踏まえた「4人のペルソナ(人物像)」を通して～	7
(2)2040年の福知山市に暮らす「4人のペルソナ(人物像)」	8
(3)見えてきた社会的なリスク	12
(4)2040年の福知山市の将来像	14
①市民が幸せを生きるための将来像	14
②将来に向けた基本政策	15
4 市が取り組むまちづくり(施策の体系)	17
(1)施策の体系を構築する視点	17
①長期ビジョンに掲げる「市民が幸せを生きるための将来像」を実現する方策としての視点 (施策の体系の縦軸)	17
②SDGsの達成に向けて横断的に留意する視点(施策の体系の横軸)	18
(2)施策の体系(一覧)	20
(3)各基本政策・政策目標・施策	22
5 市民が取り組むまちづくり(市民懇談会から福知山の未来への21の提案)	70
21の課題と未来への提案	71
6 まちづくり構想を市民とともに実行・評価していく体制	94
7 おわりに	94

1 はじめに

(1)自治基本条例における「市民と市の協働によるまちづくり」と、まちづくり構想の策定

本市の自治推進の最高規範である「福知山市自治基本条例」では、前文において「市民と市が一丸となってまちづくりを進めていく必要がある(中略)、市民と市が相互の信頼関係をより強化し、それぞれの役割と責任を果たして課題解決のために協働によるまちづくりが重要である」としています。

また同条例第 16 条では「市長は、総合的な市政運営の指針として基本的なまちづくりの構想を策定し、市民参加のもと計画的な行政運営に努めなければならない」としており、自治基本条例の自治の4つの原則である「人権尊重」「男女平等」「情報の共有」「参画と協働」を踏まえた施策の推進が必要です。

これを受けて、まちづくり構想福知山(以下「本構想」という。)は、「市民と共に考え、市民と共に作り、市民と共に実行する」計画として策定のプロセスを重視するとともに、以下の全体像に示すようにめざすべき将来像と、それを実現するための政策・施策の体系により構成します。

(2)まちづくり構想の全体像

本構想は、3つのパートで構成します。

① 長期ビジョン(2040年の将来像)

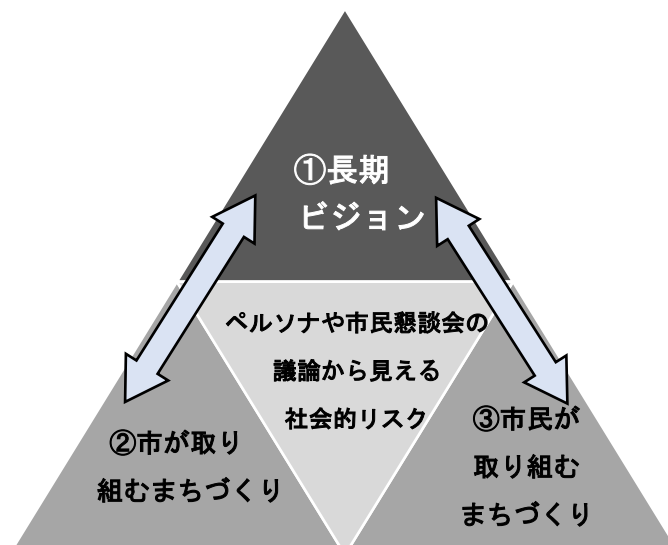
・65歳以上の高齢者人口がピークを迎え社会経済環境が大きく変化すると見られている約20年後の2040年に、市民生活が置かれているリスクを想定し、市民が幸せを生きるための将来像と、それを実現するための基本政策を本構想に位置づけます。

② 市が取り組むまちづくり(施策の体系)

・基本政策を受けて達成すべき政策目標を明らかにし、今後5年間(令和4年度～8年度)で政策目標を達成するために市が取り組む方策を施策として示し、成果指標及び課題認識、対応の方向をもって施策体系として本構想に位置づけます。

③ 市民が取り組むまちづくり(市民懇談会の21の提案)

・将来像を実現していくには、行政の施策のみならず、市民一人ひとりや地域、さまざまな法人・団体の主体的な行動こそが重要であることから、市民懇談会(注)でまとめられた市民が取り組むまちづくりの提案についても市民とともに進めていきます。



2 変わる社会

2040年の私たちを取り巻く社会環境の変化(予測)

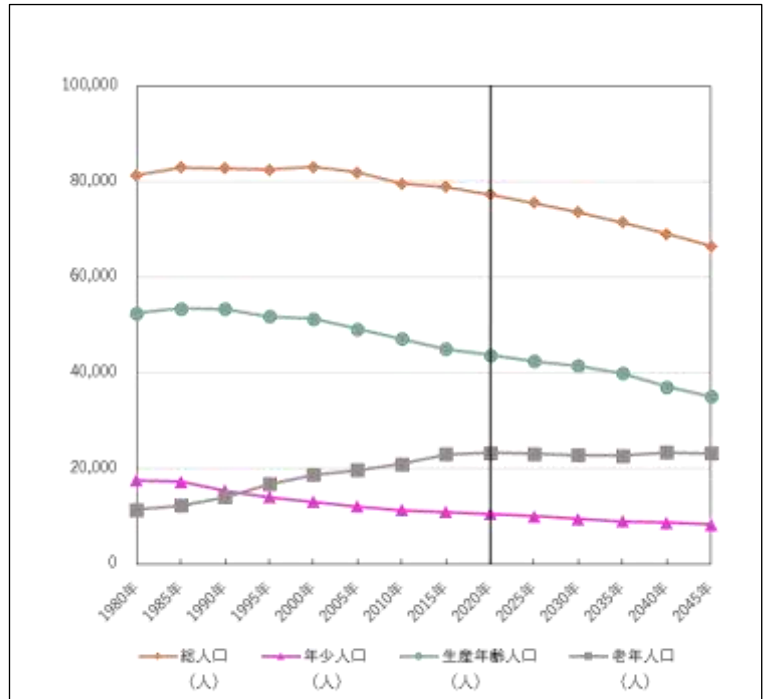
私たちの生活は、取り巻く社会環境により大きな影響を受けます。ここでは、2040年にかけて想定される社会環境の変化まとめます。

① 少子高齢化、過疎化、人口構造の変化

本市の人口減少の見通しと、人口構造の変化（将来予測数値）

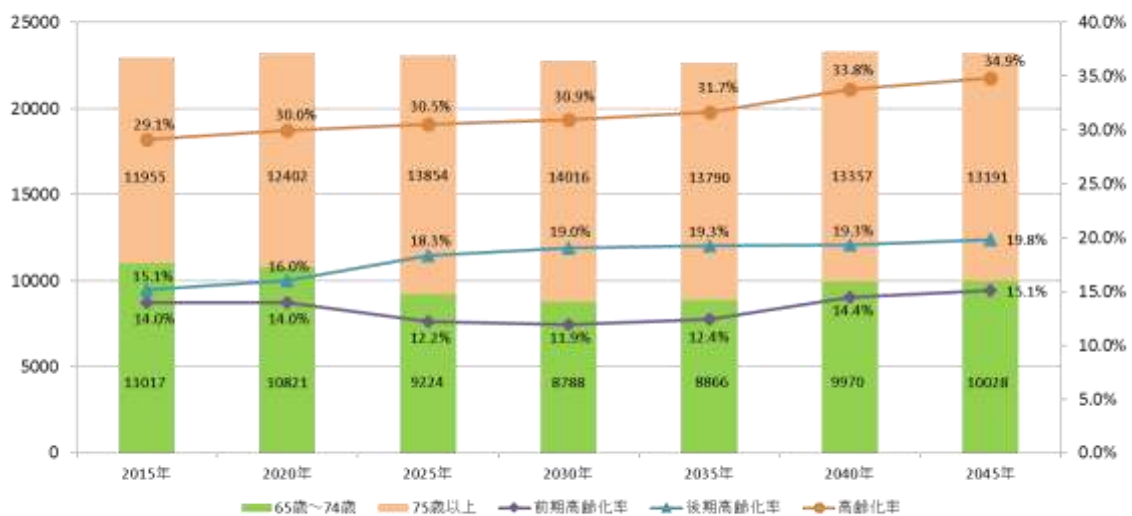
	総人口 (人)	年齢区分人口			
		年少人口 (人)	生産年齢人口 (人)	老年人口 (人)	年齢 不詳
1980年	81,398	17,544	52,504	11,326	24
1985年	83,057	17,218	53,537	12,298	4
1990年	82,791	15,333	53,352	13,992	114
1995年	82,555	14,004	51,843	16,708	0
2000年	83,120	13,018	51,316	18,713	73
2005年	81,977	12,060	49,248	19,666	1,003
2010年	79,652	11,283	47,112	20,912	345
2015年	78,935	10,918	45,045	22,972	
2020年	77,420	10,487	43,710	23,223	
2025年	75,610	10,017	42,515	23,078	
2030年	73,707	9,451	41,452	22,804	
2035年	71,521	8,956	39,909	22,656	
2040年	69,098	8,638	37,133	23,327	
2045年	66,589	8,284	35,086	23,219	

資料：国勢調査(2015年)/2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所



福知山市の今後の高齢者人口推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
福知山市人口推計(人)	76,935	77,420	75,610	73,707	71,521	69,098	66,589



介護が必要な方は、前期高齢者(65歳～74歳)は約3%、後期高齢者(75歳以上)では約30%となる。

- ・国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）における人口推計では、2040年にかけて、本市の人口は2020年の7万7420人から6万9098人へと8322人減少すると見込まれています。
- ・中でも、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）の減少が著しく、また高齢者人口（65歳以上）はほぼ横ばいであるものの、特に医療サービスや介護サービスを必要とする割合が高まる後期高齢者（75歳以上）の増加が顕著と見込まれています。
- ・このような2040年にかけての、人口減少や人口構造の変化から、地域の活力の低下、医療・介護を必要とする人の増加など、様々な影響が顕在化すると考えられます。
- ・これらの課題に対応するまちづくりを進めるとともに、人口減少を抑制する施策に取り組むことが求められます。
- ・将来人口ビジョンを定める中で、2040年において社人研推計を上回る人口7万人台を維持すべく施策に取り組むとともに、本市に通勤・通学する昼間人口の確保や市外に在住しながら、本市のまちづくりに様々な形で関わる関係人口の増加に努め、全体として本市のまちの活力の維持・向上に努めることが求められます。

②テクノロジーの進歩と普及

- ・テクノロジーの進歩の影響は、日常生活、仕事、余暇、医療、介護など様々な分野に及ぶと考えられます。多くの労働もロボット技術に置き換えられ、DX（デジタルトランスフォーメーション）により生産性が大きく向上すると見込まれます。
- ・災害予測・対応もAIなどの進歩により大きく飛躍することが期待され、医療分野では、医療機関における遠隔診療の普及のほか、医療ナノロボットの技術の劇的な伸び、iPS細胞などの研究の進歩で寿命の延伸なども考えられます。
- ・このようなテクノロジーの進歩は、2040年の本市に暮らす私たちの日常生活にも影響が及び、利便性や生活の質の向上などが期待されるところであり、本市としても積極的にテクノロジーの進歩を施策に取り入れていくことが求められます。

③地球温暖化の進展と、自然災害の増加

- ・本市は、近年、大きな豪雨災害を何度も経験してきました。また全国的に線状降水帯による集中豪雨や台風災害が頻発しており、また大きな地震も頻繁に起きているなど、いつ、どこで大きな自然災害があるか予想できません。
- ・地球規模でみると、産業革命以降の人類の諸活動に伴い地球環境への負荷が増大し、地球温暖化をはじめとした環境問題が顕在化し、温暖化による自然災害の大規模化、頻発化が今まで以上に進んでいくことが危惧されます。
- ・このような中で、現在、本市が行っているハード・ソフトの防災・減災対策の一層の充実が求められます。
- ・国においては、2050年のカーボンニュートラルを国際公約としており、本市としても再生可能エネルギーの利活用や、低炭素の視点に基づく地域づくりなど、地球温暖化対策に向けて積極的な取組が求められます。

④産業を巡る環境の変化

- ・人口減少、人口構造の変化、テクノロジーの進歩など、これまで見てきた様々な潮流が、産業全体に大きな変化をもたらすと考えられます。

- ・趨勢としては、人口減少に伴い国内市場が縮小し、国際的な経済連携が進み、今以上に国際競争力の強化が求められると予想されます。このことは長田野工業団地などの製造業を中心に本市の産業全体にも影響を及ぼし、対応が迫られるものと考えられます。
- ・生産年齢人口の減少により、製造業、卸・小売業、サービス業や農林業などあらゆる業種において、労働力の確保が課題となってくると考えられます。
- ・そのような中で、AIやICTによる省力化、DX（デジタル・トランスフォーメーション）等による生産性の向上、高品質生産等を可能にする先端技術の活用が更に進んでいくと予測されます。
- ・このようなことを背景にして、今以上に場所や時間に縛られない労働環境も可能となるなど、個々人の働き方も変化していくことも考えられ、本市においても労働力の確保や生産性の向上の促進に向けた取組とともに、ワーク・ライフ・バランスにも配慮した多様な仕事のスタイルを普及していくことが求められます。

⑤ポストコロナ社会と新たな感染症の蔓延などの予期せぬ事態

- ・新型コロナウイルスのような感染症が拡大し、人と人との接触の機会が減ることで、これまでのコミュニティのあり方や、在宅で暮らす配慮を要する人への見守りなどの支援が難しくなるなどの影響への対応も求められます。またコロナ禍で、人権侵害が顕在化する懸念がある中、人権問題を解決するための施策の推進が求められます。
- ・また、私たちの日常生活は大きく変わり、感染拡大防止の観点から、外出自粛が余儀なくされる一方で、ICT技術を活用したテレワークやリモートワークによる働き方が広がるとともに、学校等による遠隔授業、医療機関における遠隔診療なども進むと考えられます。
- ・こうした中で、京阪神から比較的近く、豊かな自然を有する本市は、ポストコロナ社会に適応した新しいライフスタイルや経済活動を展開できるまちとしてのポテンシャルを有すると考えられ、そのような観点から定住人口、交流人口、関係人口の増加に向けた取組も求められます。
- ・今回の新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた平時からの備えが重要になると思われ、あわせて、先にあげたリモートワークやサテライトオフィスなども活用した多様な働き方の推進や、様々な分野でのデジタル技術の活用、保健所や医療機関等と連携した地域の公衆衛生への対応など、ポストコロナを見据えた新たなまちづくりが求められています。

3 長期ビジョン(2040年の将来像)

(1)2040年に実際に暮らしているであろう、市民の人生を通して将来のまちづくりを考える
～社会環境の変化を踏まえた「4人のペルソナ(人物像)」を通して～

本市の「まちづくり」のあり方や進め方を考えていくため、まずは2040年に本市で実際に暮らしているであろう「4人の人物像」を、「変わる社会」でみた社会環境の変化も踏まえて、具体的に想定しました。

(2)2040年の福知山市に暮らす「4人のペルソナ(人物像)」

【人物1】

息子たちに、同じ思いはさせたくないけれど

奈良井則夫さん（仮称）（南有路在住 90歳 男性 無職）

則夫は、2歳年下の妻・佐都子と二人暮らし。長らくリウマチを患い、3年前からは認知症が出始めた妻の介護をしながら、地域の担い手として頑張れるうちはと自治会長を務める則夫。ちょっとずつ、しかし確実に、将来への不安が募ってきています。

則夫は、高校を卒業して大阪で就職し、長らく steam ふるさとを離れていました。定年を迎えた30年前、2人の息子も独立し、「妻とゆっくり第二の人生を」と思っていたところ、1人暮らしの母が脳梗塞で倒れて寝たきりに。それまで農作業や行事の時にはできるだけ帰るようにしていましたが、母の介護のためUターンすることにしました。様々なサービスを利用しながら妻と力を合わせて在宅で介護を続け、その5年後に母を見送りました。

2人だけの生活になった65歳頃からは、いつも助けてくれた妻の笑顔が最優先の則夫。趣味の旅行が高じて年に一度は海外へ。一緒に地域づくりの輪に加わったり、トレッキングを楽しんだり、すっかり田舎暮らしになじみ満喫していました。ただ、福知山とは縁の薄い息子たちは、孫が大学生になった頃から足が遠のくようになりました。昔取った杵柄でICTは得手なので、最新の機器をうまく使いこなしてやり取りしているものの、やはり寂しさもあります。

そんな妻との暮らしも、認知症が出始めてからは一変しました。分担してきた家事は、ほとんど則夫がするように。それでも、認知症サポーターの支えや配食サービスなどをうまく利用してバランスを取るようにしています。5年前に免許を返納したので、妻の月に一度の診察は訪問でお世話になっています。加えて、オンライン診療で何時でも診てもらえるし、生活必需品はスーパーの配達が充実しているので、日常生活の大変さはだいぶ緩和されています。

妻の認知症が明らかになる前に、まだまだ現役と引き受けた2度目の自治会長職も、妻の介護一辺倒にならずに済んでいるので務め続けられています。水害など地域の課題もありますが、ICTの活用が進んだ自治会長の仕事も、則夫の長所をうまく生かしているようです。周辺も多くが高齢者なので、お互いの気持ちもそれなりに理解できていますし、無理のない範囲で支え合おうという地域の気づかいや役割分担が当たり前になっていることが、則夫にとっては何よりも心強いようです。

とは言え、まだ健康にも自信があり、これからの人生を考えると、途方に暮れることもしばしばとなってきました。若い頃からの蓄えも底が見えてきて、家や田畑の維持、医療や介護など、年金生活だけでは厳しくなってきました。則夫自身は今のところ健康診断の結果も良好ですが、自分に何かあったら妻がどうなるかと心配でなりません。息子たち、孫たちには迷惑をかけたくない、自分と同じ苦勞はさせたくないと思いながらも、頼りたくなる気持ちも日増しに強くなってきています。

【人物2】

充実した人生だったはずなのに

堀 大輝さん（仮称）（夜久野町在住 55歳 男性 会社員）

大輝は、82歳の父と80歳の母との3人で、上夜久野の実家暮らし。信用金庫の支店長として忙しくしている傍ら、中学年代のサッカー指導者を20年続けてきました。息子2人も無事に就職・進学して、傍目には順風満帆で平和な家庭なのですが、実は1年前から妻と別居中。家族のこと、仕事のこと、子どもたちのこと、悩みが絶えない毎日です。

大輝は、体育会サッカー部で培った体力と粘り強さを武器に、Uターン就職後は営業畑でがむしゃらに働いてきました。第4次産業革命やコロナ禍に直面してきた、この30年。業態転換やスタートアップを支援しつつ成績を挙げてきた大輝ですが、事業承継や新技術の導入がうまくいかず廃業した経営者も数多く見てきました。なかでも、周辺市町の人口減少が労働力や販売面で市内経済に想像以上に影響を与えており、事業者とともに苦心しているのが現状です。

サッカーの指導は、ブラック部活という記事を見て衝撃を受けたことがきっかけでした。体罰やパワハラめいた指導で挫折しかけた経験を生かせたら、それが先生たちの助けになるのなら、何より子どもたちにスポーツの楽しさを、と思った大輝。指導者資格も更新を重ね、平日3日の練習と週末の対外試合を欠かすことはありません。ただ、皆に出場の機会を与えたい一方で勝利を期待する周囲の声は悩ましく、思春期の子ども相手の難しさも痛感しています。

父が転倒して脚を骨折し退院後も介護が必要となり、母も足腰が弱って生活に支障が出て来た1年前に、大輝は24年間の思い出の詰まった前田の家を売って実家に戻ろうとしました。ところが、同じ信金の本部に勤めている妻は別居を選択。綾部に1人で暮らす義母の様子を3年間見てきた妻にとって、好きなことばかり打ち込んできた揚げ句、突然の決断を言い出した大輝を許せなかったからです。以来、大輝は仕事と介護の両立を図ろうと四苦八苦しています。

京都市内で美容室勤めの長男は、そろそろ独立・開業を考えているようです。福知山に戻ることも視野にはあるものの、馴染みのお客さんを失うことと将来的な事業性にリスクも感じているようです。東京の大学に進学している二男は、元々は福知山に帰りたいと言っていました。ただ、海外の大学や企業との共同プロジェクトなどを通して、海外での仕事に興味を持っているようです。

「ようです」と伝聞調なのは、大輝は妻を通して子どもの話に触れるからです。

何よりも一番大切にしてきたはずなのに、それぞれバラバラになってしまっている家族の状況を何とかしたい。定年は事実上なくなっているものの、役職定年の60歳が近づいていて、両親・義母の今後も含めて不安ばかりが先に立つ。なのに、充実した人生で常に周囲を引っ張ってきた大輝は、こうした悩みを吐露することが苦手で相談することができません。取引先の社長が同じようなことを言っていたなど、あの時もっと一緒に向き合ったら何か変わっていたのかなと思いつつ、両親が床に着いた後の酒量が増えるばかりです。

【人物3】

子育て、家族、仕事、三兎を追えるでしょうか

衣川葵さん（仮称）（和久市在住 35歳 女性 養護教諭）

葵は、同じ年の夫・大翔と4歳の長女、生まれたばかりの二女、義理の両親の6人暮らし。夢であった養護教諭となって14年目の現在は、産休を取りながら市立フリースクールのサポート業務にあたっています。支える側で力を発揮してきた葵ですが、長女が発達障害と診断されたことで、当事者としての悩みに直面するようになりました。

葵は、与謝野町生まれ。出産時に母の病気が見つかったため、環境の整った市民病院で誕生しました。幼いころから活発で、今も続けているバレーボールは中学から始めました。練習中のケガで保健室に運ばれたとき、優しく笑顔で接してくれた保健の先生にあこがれ、それが葵の将来の夢となりました。大学時は、試験勉強の傍らスクールソーシャルワーカーとしての経験も重ね、遂に子どもの頃から縁のあった福知山で勤務することとなったのです。

学校現場の働き方は改善されてきたものの、葵の仕事は多忙を極めています。保健室での救急措置や体調不良対応はもとより、健康診断の管理、メンタル面も含めた健康相談、児童の状況に則した保健指導、学校医との連携など、校内だけでも多岐にわたります。その他、市の子ども関連の委員活動も重要な職務のひとつ。この産休中にも、疾病予防や環境衛生、相談・カウンセリングの技量をアップデートするための研修が山積みとなっています。

そんな忙しさも、持ち前の元気と笑顔で乗り越えてきた葵。29歳で結婚し、2年後に長女が生まれてからは、葵と入れ替わりで育児休業を取得した夫が主体的に担ってくれたことや、結婚直後から一緒に住んできた義父・義母の支えがとても心強く、心底頼りにしています。それが、長女が1歳半健診で自閉スペクトラム症（ASD）と診断され、さらに二女が生まれてからは、この環境のままで良いのだろうかと思うようになってきました。

長女は、2歳頃から環境の変化や人の多い場所に敏感になることが顕著となってきました。そこで葵は、日本でも当たり前になってきた超早期療育プログラムを受けさせようとしたのですが、福知山では実施機関がないことから、定期的に京都市内に通い続けています。両親も一所懸命に長女に向き合ってくれてはいるものの、一度パニックになると周囲も驚くほどの泣き叫びとなる孫に手を余している様子で、葵にとっては気がかりでなりません。

本当であれば、葵は年度替わりの4月に職場復帰する予定でいました。ですが、療育は継続が大事なので、いっそのこと京都市内に転居して復職先も変更希望を出そうかとも考えるようになりました。とは言え、仕事に戻ったときに、産休・育休中のように娘に関われるのか。夫とは現実的な話を重ねているけれど、両親には何て相談したら良いのか。支援にあたってきた子どもたちの様子も気にかかる。まさか、養護教諭を天職としてきた自分が当事者となるなんて。決して悲観的になっているわけではないけれど、葵の悩みは尽きません。

【人物4】

あの時の私、懸命になりすぎていたのかな

細見 ミカさん（仮称）（細見在住 25 歳 女性 工場勤務）

ミカは、父と母、弟2人との5人暮らし。夢破れて福知山に帰ってきて、地元の会社で契約職員として働いています。本当だったら、今頃は海外勤務でバリバリ仕事をしていたのかな。帰ってきた当初は、彼氏との今後も含めて、不透明な将来にため息をこぼしてばかりいました。

ミカは、母がよく聴いていたテイラー・スウィフトが好きになり、英語に興味を持つようになりました。中学の時には市の短期留学制度を利用してオーストラリアに行ったり、実家に1か月ホームステイしていたエマに刺激を受けたりしながら、海外への関心を強めたミカ。大学は、第1志望は叶いませんでした。が外語大に入学し、奨学金でアメリカへの留学も果たせました。起業の夢をもつ初めての彼氏もできて、この頃は将来への希望で溢れていました。

留学や日本文化が好きな友人との交流を通して、ミカはグローバルに活躍したいと思うようになりました。なかでもサービス・ホスピタリティ業界に関心を持ち、海外大学のオンライン講座でホテル経営やマーケティングを学び、フロントのアルバイトで経験も積みました。が、ことごとく内定はもらえず、外資系ホテル勤務というミカの希望は叶いません。プライダル会社へ就職はしたものの国内が中心。悶々とした思いが晴れることはありませんでした。

就職先でのミカは、日々の業務で一杯一杯。感動をサポートするという思いも果たせず、心身がすり減りダウンしてしまったため、ほどなく退社して福知山へ帰ることとなりました。3か月の休養を経て、半年前からは週3日、近所の工場に勤めています。国際的に展開する企業の子会社なので海外とのやり取りも頻繁で、新鮮な思いがミカにはあるようです。彼氏も、福知山での起業の可能性を探るために月に数回は来訪してくれ、だいぶ心が安定してきました。

ミカの年長の弟は、地元大学でソフトウェア開発を研究していて、海外大学とオンラインの共同研究も行っている様子です。元々は開発会社への就職や起業を考えていたのですが、最近は海外での研究にも興味を持ち始めました。ミカは、そんな弟を見ていて、幅広くいろんな角度から自分自身や仕事を見ている会社の人たちとの共通点に気づき始めました。母が勧めてくれた観光ガイドの講座を受けることにしたのも、そうした最近の変化が影響していました。

福知山に帰った頃には、そう間もおかずに結婚して彼のもとへ行こうかとも思っていたミカ。ガイド講座で市内のあちこちに足を運ぶうちに、故郷の自然や文化の魅力を気付かせてくれたのは実はエマだったな、と思い出しました。あの時、エマの郷里バイエルンの伝承との共通点を見つけ、2人で大盛り上がりしたことも。私って、いろんな人たちの感動や喜びを応援したいと思っていたのに、こんなに頑張っているのにと独りよがりになっていたのかな。ミカは、どうやら原点を思い出し、もう一度夢に向かって歩き始めようとしているようです。

(3) 見えてきた市民生活の社会的なリスク

2040年に市内で実際に暮らしているであろう「4人の人物像」を通して、個人的な不安や不満にとどまらない、地域に暮らす者なら直面するであろう共通の悩みや将来のリスクなどが見えてきました。

また、まちづくり構想の検討のために設置した、無作為抽出により選んだ市民と市役所の若手職員からなる約100名の市民懇談会の場においても、ペルソナを検討材料としつつ議論を深める中で、市民が向き合っていかなければならない地域の課題などについても数多くの意見が出されました。

それらを通じて、20年後に市民一人ひとりが幸せに生きていける地域社会を考えた時、多くの市民が直面するであろう、あるいは数は少なくとも深刻になるであろう、市民生活に潜むリスクについて以下のとおりまとめました。

《地域活動のあり方》

- ・自治会役員の超高齢化
- ・免許返納後の日常生活
- ・ICT活用が前提となる社会での情報リテラシーの格差
- ・地域活動の核となる小学校の廃校等によるにぎわいの喪失

《自然環境・地域資源の保全・活用》

- ・保全、保存するに留まっている魅力ある文化、伝統、景観
- ・少なくなる担い手と地域行事の衰退
- ・市の文化活動の核となる取組や拠点の不足

《子どもの育み》

- ・相談・交流相手のない子育て世帯の孤立化
- ・身近な場における障害のある子どもへの支援の機会の少なさ
- ・不登校など困難を抱える子ども、保護者への学校だけでの対応の限界

《自分らしい学び》

- ・不登校の子どもへの支援
- ・経済状況に左右される子どもの学び
- ・教師の負担増

《健康・生きがい》

- ・健康が大切だと認識していても行動につながらない健康づくり
- ・仕事以外の人間関係を構築する時間、機会のない現役世代
- ・様々なストレスが蔓延する中での身体的、精神的、社会的な健康の維持・増進の困難さ

《最期まで生き生きとした暮らし》

- ・高齢者世帯での老老介護
- ・定年後の生きがいのない暮らし
- ・絶対的に不足する介護人材

《魅力的な働き方》

- ・ 出産、育児、介護によって離職せざるを得ない現実
- ・ 定年後も働き続けたくても得られない雇用の機会
- ・ 起業の機会や時代に合った多様な働き方の選択肢の少なさ

《地域産業の発展》

- ・ 収入面で不安のある農林水産業経営
- ・ 時代、ニーズの変化により需要を失った企業の経営
- ・ 将来性があるにも関わらず、後継者不在による廃業

(4)2040年に向けてめざす福知山市の将来像

①市民が「幸せを生きる」まちへ

まちづくりの究極の目標は、そこに住む人々が幸せを実感できる世の中をかたちづくっていくことです。

本市のまちづくりの最高規範である福知山市自治基本条例では、その前文において、市民が「ふるさと福知山を誇りに思い『幸せを生きる』」ことを謳っています。

市民懇談会においても、2040年の福知山を舞台に、一人ひとりの市民が幸福に暮らしていけるまちづくりの必要性が共有され、「人とのほどよい距離感」、「自分ごと感」、「多様性の尊重」、「意欲の支え」などといった考え方が全体の方向性として出されました。

それでは、「一人ひとりの市民が幸福に暮らしていける」まちの『幸福』とは、どのように定義されるべきなのか。市民一人ひとりの幸福感は人それぞれでも、市民生活全体に共有・共感されるべき『幸福』とは一体何なのか。そういった観点から、幸福度を高める「幸福の4因子（注）」という考え方に着目し、市民が幸せを生きるための将来像を次のとおり定めます。

【市民が幸せを生きるための将来像】

ほどよい距離感で、さりげない支え合いに幸福を感じるまち

（「ありがとう！つながりと感謝の因子」より）

人口減少・高齢社会を迎え、益々地域での支え合いが大切となります。例えば身体が不自由で普段は支えられる側の人でも、困っている人の話を聞くことなどはできるかもしれません。誰もが自分のできる範囲で、できることをお互いにやる。そんな日々の営みに幸せを感じることができるまちをめざします。

多様性や個性を尊重し、自分なりに歩めるなかに幸福を見いだすまち

（「ありのままに！独立とマイペースの因子」より）

年齢や性別、国籍、障害の有無などに関わらず、それぞれの人がそれぞれの思いで、夢を叶える努力をする。そしてそれを周りの人が認め、応援する。誰もが自分なりの方法で幸せを見いだすことができるまちをめざします。

いつでも前向きに、お互いを高め合うことで幸福を呼びこむまち

（「何とかなる！前向きと楽観の因子」より）

年齢に関係なく、好奇心をもって社会と関わっていく。例えば、学び、スポーツ、仕事。生涯を通して、様々な機会を通して学んでいく。自分にあったスポーツをやってみる。いくつになっても自分のできる仕事を続ける。そんな活動を続けることにより、人との交流を通じ、お互いを高めあい幸せを呼び込むまちをめざします。

チャレンジ精神にあふれ、努力と創意工夫を重んじて幸福をつなげるまち

（「やってみよう！自己実現と成長の因子」より）

人口減少、人口構造の変化、テクノロジーの進歩など、産業全体に大きな変化をもたらすと考えられます。そんな中で、挑戦心を持って、努力と創意工夫でより高みをめざしていく。新たなチャレンジでビジネスの展開を切り拓いていく。そんな人がたくさん集まり、産業が活性化する。努力と創意工夫を重んじて幸せをつなげていけるまちをめざします。

②将来に向けた基本政策

自治基本条例の自治の4原則「人権尊重」「男女平等」「情報の共有」「参画と協働」を踏まえるとともに、さまざまな社会的リスクに向き合い、「市民が幸せを生きるための将来像」を実現するための中核的な方針として基本政策を位置づけます。

本構想は、「市民とともに考え、市民とともに作り、市民とともに実行する」ことをめざし、基本政策についても単に行政組織単位の既存施策をまとめた抽象的な標題とするのではなく、市民生活をどのように変化させるか、そのため行政としてどのような環境をつくっていくかという考え方をもち、本市のあるべき方向を示します。

「市民が幸せを生きるための将来像」の実現に向けて、市の基本政策を次の通り掲げます。

市民一人ひとりが、

① まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

高齢化、過疎化が進む中、市民と情報を共有しながら、災害対応や高齢者等の見守り・生活支援、また日常の移動手段の確保など、地域と協働して進めます。一人ひとりが、地域の担い手となり、また新たな担い手の確保も含めて、自助・共助・公助の役割分担も踏まえた持続可能なまちづくりを進めます。

② 自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち

防災・減災対策の充実に努め、市民の生命と暮らしを守ります。また、市民一人ひとりが環境問題を身近に捉え、自分たちでできることを実行するように支援するとともに、市はゼロカーボンに向けた取組や再生可能エネルギーの普及を図り、貴重な地域資源を次世代につないでいきます。

③ お互いを尊重しながら、ともに育み、ともに育つまち

子どもから大人まで誰もがお互いに、自分らしさを尊重しながら社会生活を営むため、人権文化の創造に向けて様々な取組を行います。全ての人が大切にされる社会、安心して出産・子育てができるまちづくりを進めます。

④ いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち

福知山公立大学の知見や、地域文化などの活用を図りながら、子どもが学ぶ喜びを実感する教育を実践し、成長の土台作りを行うとともに、誰もが生涯を通じて学べる場を提供します。

⑤ その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち

スポーツや文化活動などを通して、誰もが心身ともに健康で、その人なりの生きがいを持ち、生き生きと活動できる地域づくりを進めます。

⑥ 最期まで生き生きと暮らし、温かく見送られるまち

高齢期になっても、最期まで自分らしく暮らせるために、介護サービス、医療サービスの基盤を整え、住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムを推進します。

⑦ 生活と仕事の調和の取れた、多様な働き方が生かされるまち

年齢や性別、障害の有無などに関わらず、働く意欲のある人が働くことができるように、ライフスタイルに応じた多様な働き方や育児・介護と仕事が両立できる環境の整備など進めます。

⑧ 時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

長田野工業団地、同アネックス京都三和などの地域経済を支える製造業の振興、商業・サービス業の活性化、稼ぐ力のある農林業の確立などを進めます。

上記①～⑧の推進にあたり、

⑨ 持続可能な生活を支える基盤の整ったまち

公共施設の長寿命化や機能集約に取り組み、産業・生活基盤を整えるとともに、防災・減災対策として、居住地の浸水対策、治山・治水対策を進めます。

4 市が取り組むまちづくり(施策の体系)

(1)施策の体系を構築する視点

①長期ビジョンに掲げる「市民が幸せを生きるための将来像」を実現する方策としての視点(施策の体系の縦軸)

- ・ 施策の体系は、長期ビジョンに掲げる「市民が幸せを生きるための将来像」の実現に向けて、今後5年間（2022年～2026年度）に取り組む具体的な施策を示すものです。
- ・ 施策の体系においては、長期ビジョンに掲げる「市民が幸せを生きるための将来像」を実現するための9つの基本政策ごとに、政策目標や施策、施策推進にあたっての課題認識や対応の方向、目標や達成度を示す具体的な指標、別途定められている個別分野計画などによって構成します。
- ・ 課題認識のもと実効性の高い取り組みを推進するべく、「基本政策→施策・個別分野計画→対応の方向」と方策を体系化する視点を、施策の体系の縦軸として位置づけます。
- ・ 本構想では、市民の生活に関係する施策について整理することとしています。なお、行政事務の効率化による市民サービス提供の向上の視点については、本構想と連動して作成する「行政改革大綱」でその方向性を明確化します。

②SDGsの達成に向けて横断的に留意する視点(施策の体系の横軸)

- ・SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発のための目標）」の略であり、2015（平成27）年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際社会の共通目標です。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、「2030年（令和12年）」を年限とする17のゴール（目標）と169のターゲットから構成されています。先進国・途上国を問わず、世界全体の経済、社会及び環境の三側面の観点から持続可能な社会をつくるための取組として推進し、SDGsの達成に向けた取組を進めることが求められています。
- ・SDGsの考え方は、世界全体や国家単位のみならず、地方政府・自治体等においても応用できるものとなっており、わが国においても積極的に推進されています。SDGsの取組は人権尊重の考え方そのものです。本構想においても、施策の企画、実施、評価等においてSDGsのゴールとターゲット及び指標を活用することとし、全ての施策の実施において、「SDGsの視点」を横軸に位置づけることとします。

■SDGsの17のゴール（目標）

番号	ゴール（目標）
①	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
②	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
③	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
④	すべての人々の包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
⑤	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
⑥	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
⑦	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
⑧	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
⑨	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
⑩	各国内及び各国間の不平等を是正する
⑪	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
⑫	持続可能な生産消費形態を確保する
⑬	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
⑭	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
⑮	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
⑯	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
⑰	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

■本構想において重点的に取り組むSDGsの主なゴールとターゲット

ゴール	ターゲット（抜粋）	SDGsに関連する本市の主な取組
 3 すべての人に健康と福祉を	3.d すべての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。	・アクティブシティ（健康都市）の推進
 4 質の高い教育をみんなに	4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。	・福知山公立大学の知見の活用
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 7.a 2030年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。	・再生可能エネルギーの普及
 10 人や国の不平等をなくそう	10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。 10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、ならびに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。	・人権と多様性の尊重
 11 住み続けられるまちづくりを	11.5 2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。 11.b 2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。	・市民の生命と財産を守る安心、安全の確保
 16 平和と公正をすべての人に	16.6 あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。 16.7 あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。 16.b 持続可能な開発のための非差別的な法規及び政策を推進し、実施する。	・健全な財政の維持 ・人権と多様性の尊重（再掲）
 17 パートナリシップで目標を達成しよう	17.8 2017年までに、後発開発途上国のための技術バンク及び科学技術イノベーション能力構築メカニズムを完全運用させ、情報通信技術（ICT）をはじめとする実現技術の利用を強化する。 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。	・ICTなどのテクノロジーの活用 ・対話とパートナーシップの推進

(2)施策の体系(一覧)

基本政策	政策目標	施策
1 市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち	1 協働・共創のまちづくり基盤の整備	1 地域組織や地域活動の活性化
		2 地域課題の解決に向けたしくみの構築
		3 地域での支え合いの充実
	2 持続性のある移動手段の確保	1 日常の生活ニーズに応じた外出支援
		2 持続可能な公共交通の制度設計・運営
	3 地域に参画する福知山ファンの拡充	1 良質な住宅ストックの形成と移住促進
		2 関係人口としての福知山ファンの獲得
2 市民一人ひとりが、自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち	1 防災・減災、災害対策の強化	1 地域防災力の強化と減災対策の推進
		2 消防・救急体制の充実
	2 地球環境に配慮した持続可能なまちづくり	1 エネルギーの地産地消の推進
		2 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成
	3 自然と共生する地域空間の形成	1 豊かな自然環境の保全と活用
		2 景観の創造と保存
3 市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、ともに育み、ともに育つまち	1 互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造	1 人権を尊重した地域生活の確立
		2 偏見や差別のない多様性の尊重と理解促進
		3 男女共同参画の推進
		4 多文化共生とユニバーサル社会の推進
	2 すべての子どもが大切にされる地域づくり	1 課題を抱える子どもの支援の充実
		2 地域全体で子育てを支える機運の醸成
	3 安心して出産、子育てできる環境の充実	1 子どもや保護者の健康の保持・増進
		2 就学前の保育・教育の推進
4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実	1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進
		2 子どもの学びと成長の土台づくり
		3 豊かな人間性を育む教育の実践
	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり	1 生涯にわたり学び続けられる機会の充実
		2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり
	3 学びを深められる地域資源の継承・発展	1 文化財の保護・活用と地域文化の継承
		2 福知山公立大学の教育研究の充実
5 市民一人ひとりが、その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち	1 アクティブに人生を歩める生きがいづくり	1 する・みる・ささえる生涯スポーツの推進
		2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興
		3 アクティブなまちの基盤となる地域の安寧
	2 生涯を通じた身体の健康づくり	1 全ての世代に対する健康意識の醸成と動機づけ
		2 高血圧をはじめとする生活習慣病の予防促進
	3 こころの健康づくり	1 多世代にわたる精神的不調の予防と早期発見

6 市民一人ひとりが、最期まで生き生きと暮らし、温かく見送られるまち	1 自分らしく暮らせる社会環境の充実	2 ひきこもり対策の推進
		1 高齢者の身体的・精神的・社会的な健康づくり
	2 地域包括ケアシステムの推進	2 最期まで自分らしく生きられる「終活」の普及
		1 地域の支え合いによる日常生活支援の推進
		2 高度医療・救命救急・一般診療などが連携した地域医療体制の充実
	3 介護サービスの基盤整備	3 一人ひとりに寄り添った相談・支援体制の強化
		1 介護サービスの持続可能性を支える人材の確保
7 市民一人ひとりが、生活と仕事の調和の取れた、多様な働き方が活かされるまち	1 働く意欲を支える支援制度の充実	2 認知症の人と、その家族への支援の充実
		1 スキル取得やキャリア形成の機会の創出
		2 障害、年齢、性別、国籍などから就労・職場定着に結び付きにくい人への支援の強化
	2 仕事と調和の取れたライフスタイルの確立	3 子どもや学生の将来に向けたキャリア教育の推進
		1 多彩なライフスタイルの実現に向けた働き方の見直し
8 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち	1 地域経済を支える産業の振興	2 育児・介護と仕事を両立できる環境の整備
		1 既存企業の成長促進と企業の誘致・定着の促進
		2 産官学金連携を通じた経営力の強化
	2 商業・サービス業の活性化	3 新産業の育成と起業支援の充実
		1 商店街や個店の魅力向上支援
	3 稼ぐ力のある農林業の確立	2 市の特質を踏まえたキラリと光る観光戦略の推進
		1 スマート農林業及び稼げる農林業、環境に優しい農林業の推進
9 持続可能な生活を支える基盤の整ったまち	1 公共施設の最適化	2 有害鳥獣対策の推進
		1 持続可能なまちづくりに向けた公共施設の再配置
	2 産業基盤の整備	2 地域価値向上を図るための公有財産の利活用
		1 道路等の適切な維持管理と、国や府との連携による道路網の整備
		2 計画的な上下水道施設の整備
	3 生活基盤の確立	1 豊かな生活空間の整備
		2 居住地の浸水対策、治水・治山対策

(3)各基本政策・政策目標・施策

- ・市が取り組むまちづくり(施策の体系)は、長期ビジョンで掲げる基本政策を受けて、達成すべき政策目標を明らかにし、今後 5 年間(令和4年度～令和 8 年度)で政策目標を達成するために市が取り組む方策を「施策」として示しています。
- ・各施策については、その推進にあたっての課題認識、対応の方向を明らかにし、目標や達成度を示す成果指標を設定しています。
- ・成果指標については、「政策目標の成果指標」と、「施策の成果指標」の2種類を設定します。

■記載内容についての説明

1 基本政策

(1)基本政策

さまざまな社会的リスクに向き合い、「市民が幸せを生きるための将来像」の実現を目指すと同時に、遡って今後5年間の施策の中核的な方針を示しています。

(2)SDGsのターゲットとゴール

本構想においては、すべての施策の企画、実施、評価等においてSDGsのゴールとターゲット及び指標を活用することとしているため、各基本政策に特に関連の深いSDGsのターゲットを原則3つ記載しています。

2 政策目標

(1)政策目標

各基本政策を実現するため、分野ごとに達成すべき目標を掲げています。

(2)成果指標

政策目標の達成に向けて、各施策推進によりもたらされる成果を定量的に示す指標を記載しています。

(3)施策

政策目標を達成するために推進する取組の方向を示しています。

(4)個別計画

別途定められている個別分野別計画について、各政策目標の達成に関連する計画を示しています。

3 施策

(1)施策の成果指標

各施策の具体的取組の成果を定量的に示す指標を記載しています。

(2)課題認識

各施策推進において課題となる内容を示しています。

(3)対応の方向

各施策において本構想の期間中に取り組む具体的な内容を示しています。

(基本政策1) 市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標 1-1 協働・共創のまちづくり基盤の整備（地域活動への参加率）

施策①地域組織や地域活動のあり方の見直し

施策②地域課題の解決に向けたしくみの構築

施策③地域での支え合いの充実

◆個別計画

福知山市過疎地域持続的発展市町村計画、第3次福知山市地域福祉計画

政策目標 1-2 持続性のある移動手段の確保（公共交通機関の乗車率）

施策①日常の生活ニーズに応じた外出支援

施策②持続可能な公共交通の制度設計・運営

◆個別計画

福知山市地域公共交通計画、第11次福知山市交通安全計画

政策目標 1-3 地域に参画する福知山ファンの拡充（福知山ファンの地域活動への参加数）

施策①良質な住宅ストックの形成と移住促進

施策②関係人口としての福知山ファンの獲得

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	11.2 2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。
	16.7 あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する
	17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

1-1 協働・共創のまちづくり基盤の整備（地域活動への参加率）

① 地域組織や地域活動の活性化

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
地域づくり組織数			
中央公民館及び地域公民館利用者数			

◇課題認識

- ・人口減少・高齢化等による自治機能の低下
- ・多発する災害対応や地域での助け合いなどの役割増加
- ・地域への関心の希薄化

◇対応の方向

- ・誰もが活動に参加しやすい組織づくりの支援
- ・自治会活動や地域づくり組織等への地域に応じた伴走型の支援
- ・地域公民館を生涯学習に加え、福祉・地域づくりの拠点として充実

②地域課題の解決に向けたしくみの構築

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
まちづくり活動応援事業の採択件数			

◇課題認識

- ・自治会や地域づくり組織、NPOや各種市民団体等によるまちづくり活動の人材不足や資金確保
- ・地域課題解決に向けた市と市民との情報の共有不足

◇対応の方向

- ・官民連携事業や各地域の実情に合ったまちづくり活動の支援
- ・市民やNPOなどが担う公共サービスの実効性のある制度構築と運用
- ・地域公民館や大学と連携したまちづくりに関わる人材の育成
- ・「自助・共助・公助」が有効に機能する地域社会の構築
- ・地域課題解決に向けた市民との対話による情報共有

③地域での支え合いの充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
地域の支え合いサービス提供地域数			
ボランティア登録団体数			

◇課題認識

- ・日々の日常生活が困難な世帯の増加

- ・地域課題が複雑・多様化し、画一的な行政サービスだけでは対応困難なケースの増加
- ・身近な支え手が不在の要支援者における制度間、支援者間の隙間の存在

◇対応の方向

- ・高齢者の見守り、生活を支援する支え合いに取り組む地域やボランティア活動の普及拡大
- ・包括的な相談窓口としての「地域包括支援センター」と総合調整役としての「介護あんしん総合センター」における重層的支援

1-2 持続性のある移動手段の確保（公共交通機関の利用者数）

①日常生活ニーズに応じた外出支援

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
移動困難者に対する移動支援助成の利用割合（高齢者福祉課）			
移動困難者に対する移動支援助成の利用割合（障害者福祉課）			

◇課題認識

- ・免許がなく家族等にも送迎してもらえず移動支援が困難な人の増加
- ・高齢者、障害のある人、妊産婦などの外出支援
- ・移動しなくても受けられる行政サービス

◇対応の方向

- ・移動困難者を対象とした施策の推進
- ・行政窓口のオンライン化

②持続可能な公共交通の制度設計・運営

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
交通空白地における地域交通手段整備数			
バス路線における利用者1人当たりの財政負担率1,000円以下の路線数			

◇課題認識

- ・鉄道やバスについては、人口減少、自家用車の普及などの影響等で利用者が減少
- ・利用者が少ないバス路線については、再編による効率性の向上が必要

- ・移動手段の確保のために代替交通の導入の検討

◇対応の方向

- ・バス、鉄道等の既存公共交通の維持を図るための利用促進
- ・モビリティ・マネジメントの普及
- ・既存公共交通の補完的役割を担う新たな地域コミュニティ交通の導入

1-3 地域に参画する福知山ファンの拡充（福知山ファンの地域活動への参加数）

①良質な住宅ストックの形成と移住促進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
空き家情報バンク制度を通じて移住してきた人数			
定住促進住宅の入居率			

◇課題認識

- ・移住希望者の就農に留まらない、テレワークやフリーランス、二地域居住などニーズの多様化
- ・空き家と農地をセットで取得したいニーズへの対応
- ・空き家バンクの登録件数の不足
- ・各地域での移住者の受入体制づくりの充実

◇対応の方向

- ・移住希望者への就職・空き家情報発信等、総合的な相談・支援窓口の周知
- ・近隣市町との連携による、都市部からの移住者を誘引するためのプロモーションの推進
- ・農地と空き家をセットで取得したいニーズに対応した相談窓口の周知
- ・地域づくり組織など地域が主体となる、空き家対策、移住者の呼び込みの取組促進
- ・空き家所有者の適切な空き家管理の必要性和登録促進に向けての啓発
- ・定住促進住宅等の利用促進

②関係人口としての福知山ファンの獲得

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
福知山に対するイメージアンケート結果			
ふるさと納税件数			

◇課題認識

- ・ 福知山市について「災害」「事故」または「イメージがない」といったネガティブなイメージを払拭する地域ブランドの確立
- ・ 関係人口・交流人口増加による地域づくり、経済活性化
- ・ 市内スポーツ施設を利用した交流人口の拡大

◇対応の方向

- ・ 社会の変遷にあわせて市の資源の価値を見極めた上で、「明智光秀のまち」等の地域ブランドの深化と、新たなブランドの育成
- ・ 市の資源やブランドをもとに、パブリックリレーションズの発想による、各ターゲットにあったコミュニケーションの展開と、福知山ファンの拡大
- ・ 福知山ファンを、ふるさと納税や市の魅力発信等の行動変容につなげる仕組みづくり
- ・ 福知山マラソン及び全国レベルのスポーツ大会等の開催による、交流人口の拡大、関係人口の創出

(基本政策2) 市民一人ひとりが、自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標 2-1 防災・減災、災害対策の強化（自治会における防災活動（消火・避難訓練、避難所開設など）の実施率）

施策①地域防災力の強化と減災対策の推進

施策②危機管理・消防・救急体制の充実

◆個別計画

福知山市国土強靱化地域計画、福知山市地域防災計画、福知山市国民保護計画

政策目標 2-2 地球環境に配慮した持続可能なまちづくり（温室効果ガスの排出削減量）

施策①エネルギーの地産地消の推進

施策②廃棄物の適正処理と循環型社会の形成

◆個別計画

福知山市環境基本計画、福知山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（区域施策編）、福知山市再生可能エネルギー活用プラン、福知山市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画 2021、生活排水処理基本計画）

政策目標 2-3 自然と共生する地域空間の形成（保全・活用された面積）

施策①豊かな自然環境の保全と活用

施策②地域文化に根ざした景観の創造と保存

◆個別計画

緑の基本計画、福知山千年の森づくり基本計画、福知山市森林整備計画、福知山市農業振興地域整備計画、福知山市鳥獣被害防止計画

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.2 2030 年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
 12 つくる責任 つかう責任	12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
 13 気候変動に 具体的な対策を	13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。
 15 陸の豊かさも 守ろう	15.1 2020 年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。

2-1 防災・減災、災害対策の強化（自治会における防災活動（消火・避難訓練、避難所開設など）の実施率）

①地域防災力の強化と減災対策の推進（ソフト面の取組）

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
地域版防災マップ（マイタイムライン）作成率			
防災アプリ登録者数			

◇課題認識

- ・市民の的確な避難を促す避難情報の発信
- ・自主防災組織の未結成地域における結成と活動の支援
- ・地域の防災・減災活動を主導できる自主防災リーダーの不足必要性
- ・災害時要配慮者の避難体制の構築
- ・地域が取り組む防災・減災活動の支援
- ・生涯を通じた防災教育の必要性

◇対応の方向

- ・地域の防災・減災活動を主導できる自主防災リーダーの育成を推進するとともに、自主防災組織の未結成地域における結成促進の支援
- ・市内全域での地域防災マップ（マイタイムライン）作成支援や、市の台風対応タイムライン、地域のタイムラインを活用した事前の避難行動と的確な災害対応の推進
- ・市民に避難情報を確実に伝達するため、防災アプリや防災行政無線の活用など、IoTやAIの技術を取り入れた発信手段の多重化を推進
- ・タブレットやAIを活用した、地域、消防団、市との災害発生情報の収集・連絡体制の構築
- ・多様な避難の促進と感染症対策に配慮した避難所の開設
- ・避難行動要支援者名簿の地域への提供に対する同意の促進と提供した名簿の活用の推進を図るとともに、災害時ケアプラン等の作成による要配慮者への迅速・的確な支援体制の強化
- ・小中学校や公民館等における生涯を通じた防災教育の推進

②消防・救急体制の充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
救命率（社会復帰率）			

消防団員の定員充足率			
------------	--	--	--

◇課題認識

- ・複雑化、多様化、大規模化する災害対応に必要な消防車両、資機材及び消防水利の整備更新
- ・複雑化、多様化する災害対応に必要な技能・知識の習得
- ・関係機関との連携強化
- ・消防団員の確保

◇対応の方向

- ・消防車両、資機材の充実強化及び更新整備
- ・老朽化した消防水利の更新、及び耐震化対策を推進
- ・高度教育訓練や研修による消防職員の能力強化と、救急隊員の技能・知識向上のため、医療機関において実習を実施
- ・市民協働による救命率向上のための市民救命士の新規及び再受講者の育成
- ・消防団の施設、車両、資機材の計画的な更新整備
- ・魅力ある消防団活動の実践、消防団活動への理解促進、地域及び常備消防との連携強化

2-2 地球環境に配慮した持続可能なまちづくり（温室効果ガスの排出削減量）

①エネルギーの地産地消の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
再生可能エネルギー自給率			
ZEH普及件数			

◇課題認識

- ・地球温暖化を背景にした世界的な脱炭素社会へのシフトに呼応した対応
- ・再生可能エネルギーの普及と、自然環境や景観、市民生活等配慮の両立

◇対応の方向

- ・ゼロカーボンシティ、再エネ100宣言REアクションの取組の推進
- ・行政自らの率先した公共空間における脱炭素化の取組の推進
- ・市民・事業者・団体など多様な主体による脱炭素に向けた取組のための支援
- ・自然環境や景観、住民生活環境に配慮した脱炭素施策の推進
- ・主要な施設の創エネ・蓄電設備の整備によるレジリエンスの強化
- ・公共交通等におけるEV化の促進

② 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
一人あたりのごみ排出量			
リサイクル率			

◇課題認識

- ・ごみ排出量増加による地球環境への負荷と廃棄物処理施設の管理・整備の財政的負担増
- ・不法投棄による地域環境への影響

◇対応の方向

- ・2R（リデュース、リユース）及びリサイクル、「ごみ分別ツール」などにより、ごみの減量化、製品の再利用、ごみの再資源化の啓発・実践
- ・クールチョイスの啓発など環境に配慮した持続可能な製造・流通・販売・消費の意識醸成
- ・不法投棄は犯罪であることを広く市民に啓発するとともに、警察・京都府等関係機関と連携した対策強化

2-3 自然と共生する地域空間の形成

①豊かな自然環境の保全と活用

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
環境活動や脱炭素に関わる市民・事業者数			
経営管理権集積計画作成面積			

◇課題認識

- ・市域に存在する豊かな自然の保全と、その価値を損なうことのない開発・活用の両立
- ・丹後天橋立大江山国定公園の保全と活用
- ・市民、行政一体となった自然環境の保全及び資源の利活用
- ・適切な経営管理がされていない人工林の整備

◇対応の方向

- ・千年の森づくり計画を次のステージに進め、大江山トレイルラン等、自然と共生する取組の推進
- ・市民が地元の自然とふれあい、自分事として感じられるようなイベントの開催
- ・森林経営管理法に基づく人工林の管理の推進
- ・森林環境譲与税を活用した循環型森林整備モデル事業を、地域と協働し推進
- ・市民環境リーダーの養成、啓発の強化

②景観の創造と保存

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
景観計画における重点地区の指定			
屋外広告物の安全点検の実施			

◇課題認識

- ・美しい景観を市民共有の資産として保全、育成するための意識醸成が不十分
- ・地域がめざす具体的な景観イメージの共有が不十分
- ・良好な景観形成の重要な構成要素となる屋外広告物は、長期間掲出されることが多く、経年等による安全性低下の懸念

◇対応の方向

- ・まちづくりに取り組む団体等と連携した景観づくりの推進
- ・まちづくりに取り組む団体等が共有する将来像の実現に向けた実効性のある取り組みとして景観計画の活用促進
- ・屋外広告物許可制度について啓発し、無許可で掲出される屋外広告物の減少に向けた取組
- ・屋外広告物の許可にあたって安全点検を実施するなど、屋外広告物の安全性向上

(基本政策3) 市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、ともに育み、ともに育つまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標3-1 互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造（差別やDV、いじめ等事案の発生数）

施策①人権を尊重した地域生活の確立

施策②偏見や差別のない多様性の尊重と理解促進

施策③男女共同参画の推進

施策④多文化共生とユニバーサル社会の推進

◆個別計画

第3次福知山市人権施策推進計画のち輝きゆめプラン、配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護・自立支援に関する計画(第3次)、第4次福知山市男女共同参画計画(はばたきプラン2021)、福知山市障害者計画、第6期福知山市障害福祉計画、第2期福知山市障害児福祉計画、福知山市ユニバーサルデザイン推進指針

政策目標3-2 すべての子どもが大切にされる地域づくり（「まわりから自分が大切にされていると感じる」と答えた子どもの割合）

施策①課題を抱える子どもの支援の充実

施策②地域全体で子育てを支える機運の醸成

◆個別計画

第2期福知山市子ども・子育て支援事業計画、福知山市立保育園等整備計画、第2次福知山市健康増進計画

政策目標3-3 安心して出産、子育てできる環境の充実（合計特殊出生率及び出生数）

施策①子どもや保護者の健康の保持・増進

施策②就学前の保育・教育の推進

◆個別計画

第2期福知山市子ども・子育て支援事業計画、福知山市立保育園等整備計画、第2次福知山市健康増進計画

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
	5.c ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。
	10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

3-1 互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造（差別やDV、いじめの発生数）

①人権を尊重した地域生活の確立

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
人権を身近な問題と感じている市民の割合			
人権研修への参加者数			

◇課題認識

- ・コロナ禍で顕在化してきた差別事象や、インターネットなどでの差別事象への対応
- ・部落差別をはじめ、様々な人権問題、差別事象の存在とその解決
- ・恒久平和宣言都市として、平和の大切さの周知・啓発の必要性

◇対応の方向

- ・部落差別をはじめ、あらゆる人権問題への対応
- ・人権侵害救済制度の確立に向けた市の取組の推進
- ・人権を尊重した地域づくりを推進するため、「人権三法」（障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法・部落差別解消推進法）の浸透・人権侵害に対する相談体制の充実、関係機関とのネットワークの強化
- ・あらゆる世代、特に次世代を担う若者を対象に平和の尊さの啓発
- ・市営住宅建替事業に伴う、人権・子育て機能を有する複合施設の整備

②偏見や差別のない多様性の尊重と理解促進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
パートナーシップ制度の利用件数			
平和に関する啓発事業の参加者数	平和学習参加者による啓発活動（報告会、パネル展等）の参加者数		

◇課題認識

- ・多文化交流の機会や多様性を認め尊重し合う地域づくりの必要性
- ・性別による固定的な役割分担意識やジェンダー不平等の解消
- ・性的マイノリティへの配慮

◇対応の方向

- ・子どもを産む、産まない選択や結婚、離婚、パートナーの性別、人種や障害の有無など、自らの選択や選択できない事象により居づらさを感じる事のない多様性が尊重される社会をめざした

啓発

- ・男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会づくりを推進するための条例の制定やパートナーシップ制度の導入について検討、推進

③男女共同参画の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
女性の新規起業数			
市職員の女性管理職の占める割合			

◇課題認識

- ・性別による固定的な役割分担意識やジェンダー不平等の解消
- ・地域・企業・団体等の方針決定の場への女性の参画
- ・DVや児童虐待は年々増加しており、相談件数も増加

◇対応の方向

- ・男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会づくりを推進するため条例改正やパートナーシップ制度の導入について検討、推進
- ・女性の起業等、社会進出支援のための更なる啓発
- ・女性が働き続けやすい職場づくり。ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・DVや児童虐待への相談支援体制の充実

④多文化共生とユニバーサル社会の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
国際交流ボランティアの新規登録者数			
手話言語・情報コミュニケーション推進事業としての指標（あいさポーター数）			

◇課題認識

- ・障害のある人や外国籍の人など全ての人にとって暮らしやすいユニバーサルサービス普及の必要性
- ・障害のある人を対象にした、スポーツ・文化活動及び体験講座に参加するメンバーの固定化、高齢化

◇対応の方向

- ・福知山市手話言語及び障害のある人の多様なコミュニケーション促進条例等に基づく障害のある人のコミュニケーション方法の普及
- ・市民や企業を対象とした「あいサポート運動」の普及
- ・「オレンジのまちづくり」の更なる推進
- ・障害のある人も参加しやすいスポーツ・文化活動の環境整備
- ・障害のある人の自立と社会参加できる環境づくり及び自己実現に向けた学習活動の支援
- ・外国籍の人への多言語対応、日本語教育の機会確保、「やさしい日本語」の普及

3-2 すべての子どもが大切にされる地域づくり（「まわりから自分が大切にされていると感じる」と答えた子どもの割合）

① 課題を抱える子どもの支援の充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
複合的な課題を抱える家庭からの相談に対し、「すこやかサポートチーム」が対応できた割合			
4歳児クラス健診における要支援児の事後支援につながった割合			

◇課題認識

- ・健診の機会などを通じた発育・発達、育児等において困り感がある子ども、保護者への速やかな支援
- ・養育力、生活力等に困難さをもつ家庭の子どもに対し、お金の使い方を伝える支援の必要性
- ・ひとり親家庭の経済的負担は大きく、子どもと過ごす時間が短い傾向
- ・転入等により地域に親しい人がいない子育て世帯が孤立
- ・子どもの貧困（養育力・生活力・学力・関係性の貧困の連鎖）
- ・虐待に至らずともマルトリートメント（不適切な養育）状況にある家庭の潜在化

◇対応の方向

- ・発育、発達、育児等において困り感がある子どもと保護者が暮らしやすいまちづくり
- ・経済的な事情により、子どもの成長の機会を失うことのないよう早期の相談窓口へのつなぎ
- ・転入・移住してきた子育て家庭への支援
- ・子どもの貧困対策として、子どもの居場所づくりや親世代に対する各種支援の実施
- ・意図せずに子どもが不適切な養育状況に陥っていないか、当事者への啓発や相談へのつなぎ
- ・オレンジのまちづくりのさらなる推進

② 地域全体で子育てを支える機運の醸成

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
ファミリーサポート 利用希望に対し対応で きた割合			
身近に子育ての悩み や不安を相談できる環 境があると感じる市民 の割合			

◇課題認識

- ・「親になること」への漠然とした不安への対応
- ・転入・移住者が地域と溶け込みやすい子育てに関する場
- ・年々利用者が増加傾向にある放課後児童クラブの指導員の確保と育成
- ・保護者の就労状況により親子で過ごす時間が短い傾向
- ・過疎化が進む地域で利用できる子育てサービス（親子教室や習い事・塾など）における差
- ・保護者が子どもを一時的に預けたいときに周囲に預ける人がいない家庭の存在

◇対応の方向

- ・子育ての悩みや不安を相談したり、同じ立場の人と共有して乗り越えることができるような機会の創出
- ・転入、移住してきた子育て家庭への支援
- ・就労支援、児童の安心安全な居場所づくりとしての放課後児童クラブの充実
- ・家庭、学校、地域が連携強化を図り、「心の教育」実践活動を推進
- ・ICT 機器の活用によるオンライン講座の実施など、新たな手法やニーズへの取組の実施
- ・子どもを一時的に安心して預けることができる取組

3-3 安心して出産、子育てできる環境の充実（合計特殊出生率及び出生数）

①子どもや保護者の健康の保持・増進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
産婦健診受診者数 (実人数)			
産後ケア利用者数 (実人数)			

◇課題認識

- ・妊産婦やその家族の産前産後における心身の不調の懸念

- ・育てにくさを感じている乳幼児の保護者の相談先の確保
- ・保護者の困り事に寄り添い、継続的で丁寧な事後支援

◇対応の方向

- ・困っている親子が求める支援が届けられるわかりやすい窓口と、支援を届けるネットワークを構築
- ・産後うつ予防や児童虐待防止
- ・SNSの利用者の安心・安全に注意しながら、利便性を確保した相談体制の確保

②就学前の保育・教育の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
保育施設入所申込に対する入所率			
保育施設等未入所（待機）児童数			

◇課題認識

- ・市街地は保護者希望の保育園等に入りにくい傾向
- ・発達に課題がある児について、保健・福祉・医療との連携
- ・保育士、幼稚園教諭等の資格保有者の確保

◇対応の方向

- ・公立保育園、幼稚園の認定こども園化の推進
- ・障害のある子どもを受け入れる教育、保育施設、児童発達支援、放課後等デイサービスの充実
- ・発達に課題がある子どもや親へのケアや支援体制の整備
- ・保育人材の確保への支援
- ・就学前の教育、保育の質の向上

(基本政策4) 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標4-1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実（課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒の割合）

施策①地域総ぐるみの教育の場づくりの推進

施策②子どもの学びと成長の土台づくり

施策③豊かな人間性を育む教育の実践

◆個別計画

福知山市教育大綱、福知山市立学校教育内容充実推進プラン(『響』プラン・F)、第3次福知山市子どもの読書活動推進計画

政策目標4-2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり（生涯学習の参加割合）

施策①生涯にわたり学び続けられる機会の充実

施策②公民館や図書館を生かした学びの場づくり

◆個別計画

福知山市教育大綱、福知山市立学校教育内容充実推進プラン(『響』プラン・F)、第3次福知山市子どもの読書活動推進計画

政策目標4-3 学びを深められる地域資源の継承・発展（文化財や地域文化、大学に触れた市民の割合）

施策①文化財の保護・活用と地域文化の継承

施策②福知山公立大学の教育研究の充実

◆個別計画

福知山市文化振興基本方針、公立大学法人福知山公立大学中期目標

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	4.3 2030年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
	4.a 子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
	11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。

4-1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実（課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒の割合）

①地域総ぐるみの教育の場づくりの推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
地域未来塾参加生徒数			
学校運営協議会の設置地域数			

◇課題認識

- ・ふるさと福知山でその地域性（自然・人・文化・伝統）に触れる中で「自分の良さ」に気付き、自己実現、他者貢献、社会貢献できる人材の育成
- ・全ての学校において、伝統文化等に関する体験活動の充実
- ・グローバル化や情報化、少子高齢化、環境・エネルギーなどの現代的な課題に対応する力を養う教育
- ・学校運営協議会が持続的に学校を支える体制づくり
- ・地域における学校を支えるボランティアの支援の拡がり
- ・学校の部活動について教職員の負担軽減、より専門的な指導
- ・学校外での学びの機会確保としての地域での学習

◇対応の方向

- ・地域や社会、歴史や文化・伝統、国際理解などさまざまな体験活動を通じて、郷土愛や豊かな人間性を育成。環境やエネルギー問題など自然や社会につながる取組を意識した教育を推進
- ・時代を担う青少年に、広い視野と国際感覚を持ち、新たな価値観や多様性を受け入れ、グローバルな国際社会で未来を切り開くために役立つ原体験の提供
- ・地域の実情に応じて「学校運営協議会」を設置し、コミュニティースクールの導入
- ・地域におけるボランティアや組織等に対し、学校運営にかかる共同活動への参画。学校の部活動について、地域の適任者への指導の依頼
- ・「地域未来塾」の実施により、地域の絆、地域人材の活用によるコミュニティの活性化を促し、社会総がかりで子どもを育てる社会の機運を醸成

②子どもの学びと成長の土台づくり

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童・生徒の割合			
「難しいことでも、			

失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた児童生徒の割合			
----------------------------	--	--	--

◇課題認識

- ・学校教育における ICT 活用、プログラミング学習の着実な普及
- ・子どもの個性（よき）を見つけ、伸ばすことにより夢や将来のキャリアにつながる指導力
- ・各学校や地域、家庭の状況による基礎学力定着のための取組みの効果のばらつき
- ・本市が推進してきたシームレス学園構想による各校種間の連携強化の成果発現
- ・特別支援教育における一人ひとりの教育的ニーズに合った指導を可能とする専門性の向上
- ・不登校をはじめ、様々な課題に直面する児童・生徒に対する多様な学びの機会の確保

◇対応の方向

- ・1人1台のタブレットを活用した子どもの適性に合った授業改善、家庭学習、指導支援の充実
- ・子どもの可能性を伸ばす教育の充実（可能性、普遍性、地域性、時代性）と基礎学力定着
- ・発達障害のある幼児・児童・生徒に対する指導の充実
- ・特別支援教育の視点を活かした授業・学校づくりを推進
- ・一人ひとりの個性を尊重した学びの場と居場所の確保
- ・教職員の働き方改革の推進

③豊かな人間性を育む教育の実践

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
いじめ調査による認知件数のうちの解消した割合			
「人が困っているときには進んで助けている」と答えた児童生徒の割合			

◇課題認識

- ・子どもたちに、他人を思いやる心、感動する心、豊かな人間性、最後までやり抜く力、適切な人権感覚を身につけ、家庭・地域の一員として主体的に生きていくための力を養成
- ・子どもたちが心身ともに健康で、安全な生活を送ることのできる環境整備
- ・青少年がインターネットやスマートフォンなどの利用に起因し、違法薬物等の使用や性的な被害に巻き込まれる恐れ

◇対応の方向

- ・豊かな人間性を育む教育の充実（読書活動・特別支援・幼児教育）

- ・一人ひとりを大切にする人権教育を推進し、生命や人権尊重を基盤とした判断と実践力を育成
- ・いじめや虐待などに対し、組織的な対応により早期発見、未然防止
- ・青少年健全育成に寄与する関係団体が参画するネットワークにより、補導活動・啓発活動を展開
- ・ネットトラブルの未然防止と発達段階に応じた情報モラルの啓発、保護者を対象とした薬物乱用防止・根絶や有害情報対策のための研修

4-2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり

①生涯にわたり学び続けられる機会の充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
福知山公立大学が開 設する市民向け講座へ の参加者数			
生涯学習講座新規受 講者数			

◇課題認識

- ・年齢・性別・障害の有無等を問わず、全ての市民に向けた豊かな学びの機会の提供
- ・高度な知見を有する福知山公立大学の生涯学習講座講
- ・主体的な学習活動の成果を地域活動や企業活動などに生かせる場

◇対応の方向

- ・すべての人が、生涯にわたってその人にあった学びができる環境の整備
- ・市民に開かれた福知山公立大学として、大学講義のアーカイブ化やオンライン講義の充実、聴講生の増加、他大学とも連携した各種生涯学習講座の展開
- ・市民ニーズ、行政施策として魅力ある講座・教室等を企画し、市民の生きがい、地域コミュニティを促進させる生涯学習活動を活発化

②公民館や図書館を生かした学びの場づくり

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
生涯学習講座の成果 が生かせると感じる市 民の割合			
電子書籍貸出サービ ス登録者数			

◇課題認識

- ・いつでも・誰でも・どこでも・多様な方法で生涯にわたる学習活動を主体的に行い、その成果を活かすことができる環境整備
- ・親しまれる図書館づくりを通じた更なる図書館の利用促進

◇対応の方向

- ・生涯学習で学んだ成果を生かせる仕組みづくりと場の提供
- ・市民ニーズに即した魅力ある講座・教室等を企画、市民の生きがいや地域コミュニティ活性化につながる生涯学習活動の展開
- ・地域住民の学び・集い・交流の場、また、地域の情報拠点としての機能充実に向けて、地域公民館へのWi-Fi環境整備
- ・電子書籍貸出サービスの活用を促進し、来館型と非来館型の併用によるハイブリット図書館を目指す。また体験型行事等を通じ、図書館を知り、読書の楽しさを学ぶ機会を提供するなど、図書館の利用促進

4-3 学びを深められる地域資源の継承・発展

①文化財の保護・活用と地域文化の継承

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
指定文化財件数			
企画展示・講演会等への参加者数			

◇課題認識

- ・地域の伝統行事の価値の認識、情報発信
- ・丹後天橋立大江山国定公園をはじめとする価値ある自然の保全、貴重な歴史・文化の伝承
- ・文化財所有者などの関係者だけでなく保護保存に携わる多様な担い手の育成
- ・市民の文化財への関心や保護意識の高揚
- ・生涯教育における地域資源の活用

◇対応の方向

- ・和紙、漆、藍、福知山踊りなどの地域の文化資源や福知山城などの歴史資源・市民の財産である文化財を守りながら継承
- ・福知山の有する有形無形の資源を都市部や海外等の外からの視点で捉え直し、活用・発信
- ・市民に、歴史や伝統文化を身近に感じてもらえる取組実施
- ・地域の行事や祭りなど、地域の魅力、良き伝統を学びながら次世代へ継承
- ・学術調査等による地域資源の価値付け

② 福知山公立大学の教育研究の充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
福知山公立大学の地域や企業などの課題解決に向けた取組で課題解決した数			
福知山公立大学の在学者数（うち北近畿地域の高等学校から進学した在学者数）			

◇課題認識

- ・ 大学が開学以来取り組んできた地域協働型教育研究成果を通じた地域課題解決への貢献
- ・ 大学における新たな産業イノベーションや新産業の創出につなげる研究促進
- ・ 福知山公立大学の教育環境や教育内容の更なる充実
- ・ 北近畿地域からの入学者の確保
- ・ 地域産業を支える情報人材の不足

◇対応の方向

- ・ 大学と地域の様々なセクターがミッションを共有し、大胆な地域創生施策に取り組み、地域にイノベーションと新たな価値を生み出す「福知山モデル」の構築
- ・ 福知山公立大学大学院開設などの大学教育の質向上
- ・ 小中高大連携の教育推進
- ・ 福知山の地域課題解決を通じた高度情報人材の育成

(基本政策5) 市民一人ひとりが、その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標5-1 アクティブに人生を歩める生きがいづくり（スポーツ・文化芸術・ボランティア活動者数）

施策①する・みる・ささえる生涯スポーツの推進

施策②生活の質を高める文化・芸術活動の振興

施策③アクティブなまちの基盤となる地域の安寧

◆個別計画

福知山市スポーツ推進計画、福知山市文化振興基本方針、第2次福知山市健康増進計画、第11次福知山市交通安全計画

政策目標5-2 生涯を通じた身体・健康づくり（健康寿命）

施策①全ての世代に対する健康意識の醸成と動機づけ

施策②高血圧をはじめとする生活習慣病の予防促進

◆個別計画

第2次福知山市健康増進計画、福知山市スポーツ推進計画

政策目標5-3 こころの健康づくり（自殺者数・ひきこもり相談件数）

施策①多世代にわたる精神的不調の予防と早期発見

施策②ひきこもり対策の推進

◆個別計画

第2次福知山市健康増進計画、福知山市自殺対策計画

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
	3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセスおよび安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサルヘルズ・カバレッジ(UHC)を達成する。
	4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育および持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和および非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、すべての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識および技能を習得できるようにする。

5-1 アクティブに人生を歩める生きがいづくり（スポーツ・文化芸術・ボランティア活動者数）

①する・みる・ささえる生涯スポーツの推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
スポーツ施設利用者数			
スポーツ教室参加者数			

◇課題認識

- ・高齢者などの生きがいを見出す機会が少ない人への対応
- ・運動機会の減少
- ・年齢、性別、障害の有無を問わず、健康づくりのために適度な運動
- ・スポーツ施設の老朽化と効果的な機能集約の必要性

◇対応の方向

- ・年齢、性別、障害の有無に関わらず、生涯スポーツ活動を促進
- ・「する」「みる」「ささえる」「はじめる」スポーツの展開
- ・自治会などの身近な単位で、競技スポーツ経験者以外も参加しやすい場所、機会の創出
- ・大規模大会の受入環境の整備
- ・老朽化したスポーツ施設は、今後の人口減少、高齢化社会も見据え、「三段池公園内スポーツ施設」の必要な機能拡充に加え、「長田野公園」、「市民運動場」も含めた主要拠点を中心とした効果的な機能集約や統廃合を検討

②生活の質を高める文化・芸術活動の振興

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
文化施設利用者数			
文化事業参加者数			

◇課題認識

- ・高齢者などの生きがいを見出す機会が少ない人への対応
- ・市民グループの成果発表や文化芸術活動の機会が減少
- ・文化施設のインターネットを利用した利用予約システムの未導入
- ・文化振興の担い手となる組織・施設の充実

◇対応の方向

- ・文化や芸術に触れる機会を創出できる手法等の検討
- ・講習会の申し込み、施設予約などインターネットでできるように検討

- ・子どもを含む多くの市民による文化・芸術活動の振興
- ・鬼による交流、姉妹都市との交流、市外在住の福知山出身者への情報提供など多様な文化交流
- ・地域の伝統や資源に端を発する新たな文化的なコンテンツの創出

③アクティブなまちの基盤となる地域の安寧

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
刑法犯認知件数（福知山警察署管内）			
交通事故死者数			

◇課題認識

- ・継続した防犯活動
- ・地域の見守り隊の高齢化などによる後継者づくり
- ・交通事故件数は減少しているものの、高齢ドライバーによる事故の割合が増加

◇対応の方向

- ・日常生活を送りながら、できる防犯や交通安全の対策への取組
- ・安心・安全メールによる安全に関する情報の共有化
- ・市交通対策協議会を中心とした交通安全運動や交通事故防止府民運動などでの啓発活動
- ・幼児・児童・生徒、保護者、高齢者などを対象とした交通教室の実施など交通安全教育
- ・交通安全施設設備の整備や安全な通学路の整備等による、歩行者や車両の安全確保

5-2 生涯を通じた身体の高齢化（健康寿命）

①全ての世代に対する健康意識の醸成と動機づけ

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
特定疾病療養受療証交付者数			
健（検）診・人間ドックの受診率			

◇課題認識

- ・自分は健康と過信している人や健康づくりに無関心な人への対応
- ・健康活動ポイント事業など健康づくりの機会提供や情報発信を行っているが利用者は伸び悩み
- ・健康相談などにおける同じ人の利用、新規相談者の少なさ

◇対応の方向

- ・健康に対して無関心な人への健康に対するモチベーションの向上
- ・市民が主体的に健康づくりに取り組めるよう、効果的な情報の発信と各種制度を適切に運営
- ・本市の健康課題に基づき、健康づくりに関する取り組みである食育（食生活改善等）、運動の習慣化、健（検）診・人間ドックの効果的な受診勧奨などを推進
- ・高齢者の保健事業と介護予防との一体化を推進し、健康寿命の延伸を促進

②高血圧をはじめとする生活習慣病の予防促進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
別標準化レセプト件数比における高血圧性疾患の値			
国保 1,000 人当たりの高血圧症の患者数			

◇課題認識

- ・自分は健康と過信している人、多忙で健康の意識が低い人などの健康づくり
- ・本市の特徴疾患となっている高血圧症、脳卒中、循環器疾患などの予防

◇対応の方向

- ・健康づくりにもつながり、豊かに生きる糧でもある運動を核とした「アクティブシティ（健康都市）」の取組を展開
- ・本市の特徴的疾患となっている高血圧性疾患、脳卒中・循環器疾患などの予防に向け、「高血圧制圧のまちプロジェクト」を推進
- ・多忙な現役世代をはじめすべての人に、健（検）診などを受けてもらえるように効果的な受診勧奨
- ・市民が主体的に健康づくりに取り組めるような仕組みを検討

5-3 こころの健康づくり（自殺者数・ひきこもり相談件数）

①多世代にわたる精神的不調の予防と早期発見

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
自殺対策ゲートキーパー研修参加人数			
自殺者数			

◇課題認識

- ・現役世代、子ども、若者、高齢者等あらゆる世代に、精神的不調の不安
- ・自殺対策として、地域や関係機関との連携強化と正しい知識の普及、啓発

◇対応の方向

- ・現役世代をはじめ、あらゆる世代の心の不調を未然に防ぐ取組
- ・自殺対策の普及啓発及び関係機関等との支援体制の整備

②ひきこもり対策の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
ひきこもり相談件数			
ひきこもり支援件数			

◇課題認識

- ・要支援者の早期把握
- ・多様な年齢層のひきこもり
- ・孤立した人への支援の届きにくさ

◇対応の方向

- ・相談窓口の周知及び相談内容に応じて、家庭訪問や他機関への同行等の支援
- ・地域の身近な民間支援団体などの関係機関に相談できるように、地域連携の強化
- ・就労体験や民間支援団体が運営する居場所などへの支援や情報提供

(基本政策6) 市民一人ひとりが、最期まで生き生きと暮らし、温かく見送られるまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標6-1 自分らしく暮らせる社会環境の充実（最期を自宅で暮らすことの出来た人の割合）

施策①高齢者の身体的・精神的・社会的な健康づくり

施策②最期まで自分らしく生きられる「終活」の普及

◆個別計画

第9次福知山市高齢者保健福祉計画(第8期福知山市介護保険事業計画)、第3次福知山市地域福祉計画、第2次福知山市健康増進計画、福知山市医療・介護・福祉総合ビジョン

政策目標6-2 地域包括ケアシステムの推進（介護保険の新規認定者数）

施策①地域の支え合いによる日常生活支援の推進

施策②高度医療・救命救急・一般診療などが連携した地域医療体制の充実

施策③一人ひとりに寄り添った相談・支援体制の強化

◆個別計画

第9次福知山市高齢者保健福祉計画(第8期福知山市介護保険事業計画)、第3次福知山市地域福祉計画、第2次福知山市健康増進計画、福知山市医療・介護・福祉総合ビジョン、新公立病院改革プラン

政策目標6-3 介護サービスの基盤整備（介護人材・認知症サポーターの数）

施策①介護サービスの持続可能性を支える人材の確保

施策②認知症の人と、その家族への支援の充実

◆個別計画

第9次福知山市高齢者保健福祉計画(第8期福知山市介護保険事業計画)、第3次福知山市地域福祉計画、第2次福知山市健康増進計画、福知山市医療・介護・福祉総合ビジョン

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
	5.4 公共のサービス、インフラおよび社会保障政策の提供、並びに各国の状況に応じた世帯・家族内にける責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。
	11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。

6-1 自分らしく暮らせる社会環境の充実（最期を自宅で暮らすことの出来た人の割合）

①高齢者の身体的・精神的・社会的な健康づくり

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
フレイルチェック実施割合			
介護予防事業への参加者割合			

◇課題認識

- ・ 家庭以外に居場所がない人の閉じこもり
- ・ 介護予防や認知症対応が必要な高齢者の増加
- ・ 高齢者が、多様な就労・社会参加ができる環境
- ・ 市民あげての認知症に優しいまちづくり

◇対応の方向

- ・ 増加するニーズに対応するため地域包括支援センターや基幹型センター「介護あんしん総合センター」の機能充実や体制の強化
- ・ 医療職等も関与しながら介護予防事業と高齢者の保健事業（フレイル予防）との一体的な実施
- ・ 高齢者の社会参加、生きがいづくりの推進、地域の見守りや支え合いの取組を促進
- ・ 働く意欲のある高齢者が個々の状況に応じて活躍できるよう多様な雇用・就業機会の確保

②最期まで自分らしく生きられる「終活」の普及

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
訪問診療の事業所数			
訪問看護の事業所数			

◇課題認識

- ・ 市民が自ら望む最期を実現できるための環境整備
- ・ 在宅における医療的ケアの提供体制の構築
- ・ 患者本人の意思を尊重しながら、医療従事者、介護従事者、家族等も参加して生き方を探る努力、本人の生き方が尊重できる体制整備と運用
- ・ 高齢期になって、これからの人生で何をしておくべきか不安に感じる人への対応

◇対応の方向

- ・ 病院、介護施設、自宅など人生の最終盤の送り方について自ら望みができる限り実現できるような支援

- ・病院の医師、かかりつけ医、および介護従事者等が、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づき、患者本人、家族に寄り添いながら、本人の意思を尊重した人生の最終盤を生きる支援を実施
- ・自分自身や家族の終末期の在り方について話し合うなど市民の終活の普及啓発
- ・故人の尊厳を尊重し、人生終焉の地に相応しい施設として斎場の改修

6-2 地域包括ケアシステムの推進（介護保険の新規認定者数）

①地域の支え合いによる日常生活支援の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
支え合いサービス提供地域数			
孤独死の数			

◇課題認識

- ・地域の希薄化により、周囲との関りが少ない人の孤独死
- ・医療・介護ニーズが高まる後期高齢者（75歳以上）の増加
- ・介護保険制度等公的サービスのみ担えない高齢者支援

◇対応の方向

- ・孤独死を防ぐための支援の充実
- ・社会福祉法人による地域における公益的な取組
- ・地域での支え合いによる生活支援や、独居高齢者の見守りを促進

②高度医療・救命救急・一般診療などが連携した地域医療体制の充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
福知山市民病院当該2次医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合			
福知山市民病院 救急応需率			

◇課題認識

- ・地域包括ケアシステムの一環として、市民病院の役割の充実

- ・市民病院における医療圏を越えた医療機関との広域的連携の推進
- ・ICT 技術による遠隔医療、訪問診療・看護の検討

◇対応の方向

- ・福知山市民病院の医療圏を越えた広域型・基幹病院としての高度急性期医療・回復期医療のさらなる充実
- ・大江分院の地域密着型病院としての在宅医療の推進および慢性期病院機能の充実。さらに本院と連携した総合診療医養成カリキュラム実習病院として、在宅医療を担う人材の育成
- ・大江分院における、通院が容易でない高齢者などを対象にした遠隔医療のパイロットスタディの推進

③一人ひとりに寄り添った相談・支援体制の強化

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
地域包括支援センターの相談に結びついた件数			
医療職・介護職等を含む地域ケア会議の回数			

◇課題認識

- ・後期高齢者の増加から、認知症高齢者、高齢世帯の増加
- ・医療とともに介護ニーズの高い在宅高齢者の急増
- ・在宅患者に関わる医療職・介護職等の患者情報の共有化
- ・在宅での家族介護者の孤立
- ・重層的課題を抱える家庭の増加

◇対応の方向

- ・介護職員による医療的ケア対応など、高齢者への在宅介護サービスの充実
- ・医療と介護が一体となり適切なケアを提供できるよう在宅サービスの充実や医療機関等との連携強化
- ・民生児童委員や地域包括支援センター、介護事業所などが連携して、在宅介護家族者への支援
- ・地域包括支援センターにおける、地域の医療、保健、介護分野の専門機関の関係者から地域住民まで幅広いネットワークを作りサービス調整や情報共有、困難ケースへの対応
- ・基幹型センター「介護あんしん総合センター」における各地域包括支援センターの総合調整を行うとともに、医療・介護連携や権利擁護、認知症対策などの総合的な推進
- ・包括的な相談窓口としての「地域包括支援センター」と総合調整役としての「介護あんしん総合センター」における重層的支援

6-3 介護サービスの基盤整備（介護職員の必要数に対する充足率）

（介護人材）

①介護サービスの持続可能性を支える人材の確保

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
介護事業所・障害福祉サービス事業所における介護人材の不足感の人数			
介護事業所資格保有者割合＜介護福祉士＞			

◇課題認識

- ・現役世代の減少や介護ニーズの増大による一層の介護人材の不足、支え手不足の深刻化

◇対応の方向

- ・健康づくりや介護予防を通じた健康寿命の延伸による介護需要の抑制
- ・介護職員の処遇改善や職場環境の改善に向けた取組の推進
- ・外国籍の人や若い世代等の介護人材の育成、確保への支援
- ・専門性を有する介護福祉士の育成、確保への支援
- ・人材不足を踏まえ専門職と住民支え合いの役割分担

②認知症の人と、その家族への支援の充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
認知症初期集中支援チームが介入し、支援方針が確定した人の割合			
認知症上位サポーター数			

◇課題認識

- ・認知症本人、その家族の孤立
- ・認知症の人が必要なサービスへの繋がりにくさ
- ・悩みを抱えても吐露することができない家族介護者への支援

◇対応の方向

- ・介護サービスの質の確保の視点から、その中心となる介護支援専門員を対象として研修会等を実施しケアマネジメントの質及び専門性の向上
- ・症状が進行し、様々な周辺症状が発生してからの事後的な対応でなく、認知症の人やその家族に早期に関わる支援体制の構築
- ・認知症本人やその家族が、専門職や地域の人と情報共有したり、お互いに理解し合う場づくりにより、孤立の防止
- ・「権利擁護のあり方検討会議」の議論を踏まえた、認知症等の高齢者の虐待防止、消費生活被害の防止、権利擁護の推進、成年後見制度の利用促進や周知啓発と後見業務に係る人材確保
- ・オレンジのまちづくりのさらなる推進

(基本政策7) 市民一人ひとりが、生活と仕事の調和の取れた、多様な働き方が生かされるまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標 7-1 働く意欲を支える支援制度の充実（就業率）

施策①スキル取得やキャリア形成の機会の創出

施策②障害、年齢、性別、国籍などから就労・職場定着に結び付きにくい人への支援の強化

施策③子どもや学生の将来に向けたキャリア教育の推進

◆個別計画

福知山市創業支援事業計画、福知山市障害者福祉計画、公立大学法人福知山公立大学中期目標、福知山市立学校教育内容充実推進プラン(『響』プラン・F)

政策目標 7-2 仕事と調和の取れたライフスタイルの確立（育児休業・介護休暇の取得率）

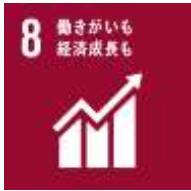
施策①育児・介護と仕事を両立できる環境の整備

施策②多彩なライフスタイルの実現に向けた働き方の見直し

◆個別計画

福知山市創業支援事業計画、第4次福知山市男女共同参画計画(はばたきプラン 2021)

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	4.4 2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
	8.5 2030 年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一価値の労働についての同一賃金を達成する。 8.6 2020 年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。

7-1 働く意欲を支える支援制度の充実（就業率）

①スキル取得やキャリア形成の機会の創出

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
就職支援事業を通じて市内企業に就職した人数			
シニアワークカレッジ講座への参加者数			

◇課題認識

- ・デジタル社会を主体的に生き抜く生涯活躍スキルの取得機会の確保
- ・定年後も仕事を続けたい人の雇用の場の確保
- ・一つの生活拠点に縛られない多様な働き方やライフスタイルの普及への対応

◇対応の方向

- ・福知山公立大学と連携したシニアワークカレッジの推進
- ・高度な専門知識や高等教育を受けた学生がスキルを発揮できる事業所を育成、誘致
- ・福知山公立大学と連携し起業に必要な知識及びスキルが修得できるプログラムの実施
- ・スキル取得のためのセミナーやキャリア形成相談会等の開催
- ・福知山雇用連絡会議を中心に就職フェスタの開催や、企業ガイドブックの発行など魅力ある企業紹介
- ・コロナ後のテレワークを前提とした働き方にマッチしたU I J ターン支援

②障害、年齢、性別、国籍などから就労・職場定着に結び付きにくい人への支援の強化

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
シルバー人材センター登録者数			
障害のある人の就労者数			

◇課題認識

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による雇用環境の変化
- ・障害の有無・年齢・性別・国籍などで就労がしにくい環境にある人の就労の機会の確保、雇用促進
- ・勤労の意欲があっても働けない人への支援

◇対応の方向

- ・ウィズコロナを踏まえた在宅や、リモートワーク等の新たな働き方の普及
- ・一人ひとりの特性に応じたきめ細かな相談体制を整え、職業能力や技術の向上を促進
- ・障害者雇用1000人のまちプロジェクトの推進、障害のある人への就業支援
- ・北京都ジョブパークやシルバー人材センターなどと連携した子育て世代、高齢者などへの雇用促進
- ・セーフティネットとしての生活保護制度等の適切な運用

③子どもや学生の将来に向けたキャリア教育の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
小中学校でのキャリア教育につながる事業等の実施回数			
若者の地域定着率			

◇課題認識

- ・子ども時代から将来のキャリアを考える機会の必要性
- ・地元出身生徒の地元大学への進学及び高度な知識の習得
- ・地元企業の特徴や労働環境といった情報のさらなる収集とより効果的な発信
- ・福知山公立大学生の北近畿地域内での就職

◇対応の方向

- ・学校教育などにおけるキャリア教育の推進
- ・福知山公立大学など、市内の学生が地域活動や企業活動など、様々な活動に触れ、将来のキャリアを考える機会を提供
- ・高校生・大学生などの市内での就職・起業
- ・市外へ進学した若者をターゲットとした地元企業のPR

7-2 仕事と調和の取れたライフスタイルの確立

①育児・介護と仕事を両立できる環境の整備

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
くるみん認定企業数			
ワークライフバランス認定企業数			
市職員の育児休業取得割合			

◇課題認識

- ・育児・介護と仕事の両立
- ・育児休業・介護休暇を取得しやすい職場環境づくり
- ・男性の育児休業取得が低調
- ・テレワーク従事者におけるメンタルヘルス
- ・働きやすい職場環境づくり

◇対応の方向

- ・育児や介護を行う社員が働きやすい環境づくりに向けた研修機会の創出及び制度の周知と活用促進
- ・男性の育児休業の啓発、取得促進
- ・介護離職防止や、介護者の相談に対応できるような相談支援体制の充実
- ・労働環境の改善やハラスメント防止に向けた相談会やセミナーの開催

②多様なライフスタイルの実現に向けた働き方の見直し

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
・市内事業所の新規雇用者数			
・就職支援事業を通じて市内に就職した人数			
・市内テレワーク施設（NEXT ふくちやまテレワーク整備支援補助金を活用）の利用者数			

◇課題認識

- ・地元企業の特徴や労働環境といった情報のさらなる収集とより効果的な発信
- ・ウィズコロナを踏まえた在宅やテレワーク等新たな働き方の普及

◇対応の方向

- ・市内の高校、福知山公立大学を活かした就職支援事業やインターンシップを通じた若者・U I J ターン向け事業の促進
- ・テレワークなどの導入による新たな労働環境の整備
- ・移住希望者への居住支援や相談支援体制の強化、周知

(基本政策8) 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標8-1 地域経済を支える産業の振興（工業出荷額）

施策①既存企業の成長促進と企業の誘致・定着の促進

施策②産官学金連携を通じた経営力の強化

施策③新産業の育成と起業支援の充実

◆個別計画

長田野工業団地利活用増進計画、福知山市創業支援等事業計画、福知山市導入促進基本計画

政策目標8-2 商業・サービス業の活性化（売上額）

施策①商店街や個店の魅力向上支援

施策②市の特質を踏まえたキラリと光る観光戦略の推進

政策目標8-3 稼ぐ力のある農林業の確立（農業産出額）

施策①スマート農業及び稼げる農業、環境にやさしい農業の推進

施策②有害鳥獣対策の推進

◆個別計画

福知山千年の森づくり基本計画、福知山市農業振興地域整備計画、福知山市鳥獣被害防止計画、福知山市森林整備計画

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	2.3 2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。
	8.3 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。
	12.b 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する。

8-1 地域経済を支える産業の振興（工業出荷額）

①既存企業の成長促進と企業の誘致・定着の促進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
長田野工業団地における投資件数			
長田野工業団地アネックス京都三和における分譲区画数			

◇課題認識

- ・長田野工業団地の環境整備
- ・長田野工業団地アネックス京都三和への企業誘致

◇対応の方向

- ・長田野工業団地利活用増進計画の推進、立地企業ニーズに応じた支援
- ・国、京都府等と連携した長田野工業団地アネックス京都三和等への企業誘致による雇用の場の創出
- ・市内外の工場等の増設・建て替え意向の把握及び優遇制度の周知や操業環境の整備

②産官学金連携を通じた経営力の強化

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
市内商工業の売上高・製造品出荷額（長田野、アネックス京都三和以外）			
工業団地と市内企業の受発注金額			

◇課題認識

- ・商店の高齢化・後継者不足による廃業に伴う空き店舗の増加
- ・販売形態の多様化による消費者のニーズの変化への対応が必要

◇対応の方向

- ・大学の特性を活かした、福知山公立大学が核となる産官学連携コンソーシアム構築
- ・商工関連団体等との連携による、消費者行動の変化に対応した魅力ある店舗、集客取組みへの支援。地元企業向けの経営セミナー開催

③新産業の育成と起業支援の充実

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
N E X T産業創造プログラムに係る起業数・事業提携数・企業内起業数			
創業支援機関の支援による創業者数			

◇課題認識

- ・新産業の育成や起業にチャレンジし、その創意工夫をサポートする土壌
- ・地元企業への就職件数を増やすための受け皿整備

◇対応の方向

- ・起業希望者向けの支援体制の推進とセミナーの開催
- ・「いなか暮らし起業」、「まちなか起業」の促進
- ・福知山公立大学と連携し、起業に必要な知識及びスキルを習得できるプログラムを実施

8-2 DXを生かした商業・サービス業の活性化（売上額）

①商店街や個店の魅力向上支援

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
市の支援等を通じた中心市街地における新規出店者数			

◇課題認識

- ・市内人口および周辺市町の人口減少に伴う商圈人口の減少
- ・商店の高齢化・後継者不足による廃業、空き店舗の増加
- ・既存商店街の衰退

◇対応の方向

- ・立地適正化計画による都市再生推進法人への認定等による民間主導によるエリアマネジメントへの支援
- ・中心市街地への誘客と賑わい創出の取組。有効な情報発信による集客と回遊促進、空き物件を活

用した新規開業に対する支援

- ・商店街、福知山まちづくり株式会社、福知山市商工会議所、福知山市商工会等と連携した、各エリア、各個店に対する支援

②市の特質を踏まえたキラリと光る観光戦略の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
観光消費額			
観光入込客数			

◇課題認識

- ・魅力のある観光資源の発掘・磨き上げによる体験型観光コンテンツの造成と情報発信による集客
- ・観光事業に携わる専門人材の育成
- ・観光情報も含めたまちの情報発信として、シティプロモーションとの連動

◇対応の方向

- ・観光客等の行動変容などを捉えた観光振興施策の実施
- ・海の京都DMO、森の京都DMO等広域団体と連携した観光プロモーションの推進
- ・メディアを活用し多様な魅力を発信して、認知度・知名度を向上させることによる、観光客数の増加
- ・地域資源を活かした新たな誘客コンテンツの創出

8-3 稼ぐ力のある農林業の確立（農業産出額）

①スマート農業及び稼げる農林業、環境に優しい農林業の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
スマート農業機械を導入した農業経営体数			
経営管理実施権配分計画作成面積			

◇課題認識

- ・高齢化などによる担い手不足
- ・荒廃農地の増加
- ・農業基盤施設の老朽化
- ・農林産物のブランド力と販路開拓
- ・環境に配慮した農産物に対する消費者意識の向上

- ・伐採期を迎えた森林からの木材の搬出及び利用
- ・畜産農家の減少

◇対応の方向

- ・福知山ならではの特色ある製品の発掘および魅力の発信
- ・スマート農業の推進
- ・担い手の営農継続、拡大の推進
- ・農地・農業施設等の機能維持及び地域農業の推進
- ・農薬・化学肥料を低減した農業の推進
- ・「スイーツのまち福知山」と丹波くりを絡めた事業展開の推進
- ・森林経営管理制度による林業事業体の森林整備を推進
- ・地域協働による循環型森林整備の推進
- ・畜産経営の安定化への支援

②有害鳥獣対策の推進

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
捕獲頭数			
有害鳥獣の被害金額			

◇課題認識

- ・効率的な有害鳥獣対策
- ・近接する市町と協力した有害鳥獣対策
- ・荒廃農地の増加

◇対応の方向

- ・有害鳥獣対策の専門的知識・経験のある兵庫県立大学等と連携し、ICTを活用した地域協働による有害鳥獣対策の推進
- ・有害鳥獣対策等による継続した農業経営及び荒廃農地の拡大抑制

(基本政策9)持続可能な生活を支える基盤の整ったまち

□政策目標（成果指標）と施策、個別計画

政策目標9-1 公共施設の最適化

施策①持続可能なまちづくりに向けた公共施設の再配置

施策②地域価値向上を図るための公有財産の利活用

◆個別計画

福知山市公共施設マネジメント基本計画、福知山市公共施設マネジメント実施計画、福知山市公共施設マネジメント個別施設計画、福知山市学校施設長寿命化計画、福知山市国土強靱化地域計画、福知山市都市計画マスタープラン、福知山市立地適正化計画

政策目標9-2 産業基盤の整備

施策①道路等の適切な維持と維持管理と、国や府との連携による道路網の整備

施策②計画的な上下水道施設の整備

◆個別計画

福知山市公共施設マネジメント基本計画、福知山市国土強靱化地域計画、福知山市都市計画マスタープラン、福知山市立地適正化計画、福知山市水道事業ビジョン、福知山市下水道ビジョン、福知山市水道事業経営戦略、福知山市下水道事業経営戦略、福知山市農業集落排水施設事業経営戦略

政策目標9-3 生活基盤の確立

施策①豊かな生活空間の整備

施策②居住地の浸水対策、治山・治水対策

◆個別計画

福知山市公共施設マネジメント基本計画、福知山市公園施設長寿命化計画、福知山市国土強靱化地域計画、福知山市都市計画マスタープラン、福知山市立地適正化計画、福知山市公営住宅等長寿命化計画

■基本政策に関連するSDGsのゴール&ターゲット

ゴール	ターゲット
	6. b 水と衛生に関わる分野の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する。
	9. 1 すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する。
	11. 3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。

9-1 公共施設の最適化

①持続可能なまちづくりに向けた公共施設の再配置

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
公共施設の削減延床面積			
長寿命化事業実施件数			

◇課題認識

- ・少子化・超高齢化の進行など社会的変化を踏まえた最適な公共施設の実現
- ・老朽化する学校など、公共施設の安心・安全の確保
- ・厳しい財政状況における持続可能な公共施設サービスの提供

◇対応の方向

- ・市民協働によるまちづくりと公共施設の再配置
- ・身の丈にあった公共施設量を目指した公共施設の総量削減
- ・計画的な修繕による学校などの施設の長寿命化と安全性、機能性の確保
- ・施設重視から機能重視への転換した公共施設の集約化、複合化

②地域価値向上を図るための公有財産の利活用

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
民間と連携した公共施設の利活用件数			
施設、サービスの複合化・集約化の実施件数			

◇課題認識

- ・大規模施設の遊休化による地域の空洞化解消
- ・未利用財産の効果的運用
- ・未利用財産の維持管理に要する費用の抑制
- ・地域価値を向上させる公共施設の再配置

◇対応の方向

- ・市民協働によるまちづくりと公共施設の再配置
- ・SDGs推進や子育て・教育の充実、健康・福祉増進、文化・スポーツ振興、防災、産業振興など多岐に亘

る関連施策と連携した取組

- ・公民連携手法（PPP・PFI など）の積極的な導入
- ・社会的変化に応じたニーズに基づく新たな機能の導入や集約化、複合化

9-2 産業基盤の整備

①道路等の適切な維持と維持管理と、国や府との連携による道路網の整備

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
道路舗装補修計画の延長			
橋りょう点検実施数			

◇課題認識

- ・道路改良について、多くの自治会要望がある中で対応箇所を判断
- ・高齢化が進む地域の道路環境維持、美化作業
- ・橋りょう数が多く、点検費用が莫大
- ・都市計画道路整備の推進
- ・各地域における実情や特性に応じた都市計画道路のネットワーク化・避難路としての機能をもったアクセス強化・交通ネック危険個所の解消
- ・国道、主要地方道の改良、整備によるアクセス向上

◇対応の方向

- ・道路改良について、必要性や緊急性、経済効果などを考慮し実施
- ・地元協議で合意を得て測量を行い、境界確定を進めて、用地取得を完了
- ・除草作業の効率化等による道路環境の維持
- ・老朽化する道路橋の修繕費の増大に対し、予防的な修繕及び計画的な架け替えの推進
- ・国道及び主要地方道等の重要な幹線道路整備や、民間開発を含めた市街化区域の整備と連携した都市計画道路整備
- ・各地域における実情や特性に応じた都市計画道路のネットワーク化・避難路としての機能をもったアクセス強化・交通ネック危険個所の解消に向けた整備
- ・国、京都府と連携して、国道9号・429号・175号・426号及び主要地方道等の改良、整備の促進
- ・公共事業の効率化・コスト削減のため地籍調査事業を促進する。

②計画的な上下水道施設の整備

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
水道管路の耐震化率			
総合的な地震対策計画に位置づけた下水道施設の耐震化率			

◇課題認識

- ・上下水道施設の統廃合、耐震化、老朽化
- ・浄水場における原水の水質変化のリアルタイムな監視、対応
- ・快適で住みよい生活環境の形成
- ・人口減少の進行による上下水道使用料の減収

◇対応の方向

- ・上下水道施設の統廃合、耐震化、老朽化対策の推進
- ・漏水対策の推進による有収率の向上
- ・浄水場の水質管理体制の強化
- ・下水道事業、農業集落排水事業、合併浄化槽事業による水洗化の促進
- ・有効な財源を活用した計画的な施設更新
- ・京都府北部圏域における上下水道事業の広域化・広域連携の検討

9－3 生活基盤の確立

①豊かな生活空間の整備

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
三段池公園利用者数			
つつじが丘・向野団地建替事業進捗率			

◇課題認識

- ・利用者のニーズにあった三段池公園整備の中長期的視点からの計画的な維持管理が必要
- ・福知山市公営住宅等長寿命化計画に伴う建替事業の実施状況や施工中の近隣住民への安心・安全や騒音等の配慮、円滑な引越しによる入居者の負担軽減。

◇対応の方向

- ・三段池公園の魅力向上のため利用ニーズにあった施設整備を行うとともに、長寿命化計画に基づき計画的な施設改修の実施
- ・近隣住民や入居者、建替事業者と本市による連携を強化することにより円滑に事業を推進し、完成後のミクストコミュニティに向けた体制の構築を図る。

②居住地の浸水対策、治山・治水対策

◇主な成果指標（例示）

指標	概要	実績値	目標値
市管理河川における 浚渫を実施した河川数			
手入れがされていない人工林面積			

◇課題認識

（治山）

- ・大規模災害による緊急治山事業は完了したが、予防治山や保水力を高める森林整備は今後も進める必要がある。
- ・山への関心の低さ

（市街地浸水対策）

- ・由良川の支川等の改修や大江町等の内水対策強化が必要
- ・総合的な浸水対策が必要

◇対応の方向

（治山）

- ・治山事業の促進と関係機関への働きかけ
- ・森林経営管理法に基づく森林整備の促進
- ・市が危険個所を把握し、地元へ事業提案

（市街地浸水対策）

- ・国、京都府と連携して、由良川の支川等の改修・促進。大江町等の内水対策を含めた内水対策を強化
- ・浸水対策事業未実施地区の浸水対策を実施
- ・浸水対策として、雨水ポンプ場の増強、雨水貯留槽の設置、水路改修、排水路新設等の進捗、適正な運用の推進

5 市民が取り組むまちづくり(市民懇談会から福知山の未来への21の提案)

無作為に選ばれた94人の市民が楽しく、真剣に話し合いを重ねて 福知山市の課題、未来について提案をまとめました。

私たちは、2020年12月から2021年10月まで5回にわたって「福知山市民懇談会」で、(1)安心して快適に過ごせるまち、(2)子育てのしやすさと学びのまち、(3)健康で生きがいのあるまち、(4)産業振興と発信力のある魅力あふれるまちの4つのテーマにわかれて、日々の暮らしの中で感じている課題や福知山の良さ、これから何をしていくのが良いかということを話し合いました。

市役所から無作為の市民に送られた案内がたまたま届いたことをきっかけに参加した94人の委員は、初めて顔をあわせる人たちが多く、住んでいる地区も、仕事も年齢も、お互いの考えも全くわからないところからの話し合いで、はじめはよそよそしく、緊張もしましたが、回を重ねるごとに打ち解け、和気あいあいと、時には熱く議論しました。

本書は、10ヶ月間にわたって話し合った私たちからの福知山市の未来にむけた21の提案です。話し合いでは、私たちが実際に直面している暮らしの中の課題を率直に議論しましたが、文字にすると少し“きれいに”まとまり過ぎているかもしれません。

私たちの会議の空気、熱い意見が少しでも伝わるよう委員の「声」を交えて、お届けします。

私たちは、この提案書が「ゴール」だと考えていません。

この提案の実現のためには、福知山市役所のみならず、私たち一人ひとりや地域の動きがとても重要です。この提案書がきっかけとなり、福知山市の様々な場所で、たくさんの議論、アイデア、行動がうまれてほしい。そんな思いでこの提案書をまとめました。

01	生活実感を入り口に、地域のことを「自分ごと」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう
02	学校だけではない学びの場をつくり、「生きる力」と「困難に対するしなやかさ」を育もう
03	「子育ての話」を気軽にでき、先入観や「あるべき論」にとらわれず、一人ひとりの個性をいかした子育てができる環境をつくろう
04	障害のある人やさまざまな悩みを抱え、孤立しがちな子どもや家族に市民どうしが互いに関心を持ち、手を差し伸べ、誰も孤立させない環境をつくろう
05	学び続けたい大人たちが、互いに学び合い、教え合う環境をつくり、地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくろう
06	動画やデジタルを活用した「ICT 教育」を推進し、一人ひとりの状況にあわせたきめ細やかな学びを実現させると同時に、生きる力を集団で学ぶ、成熟した学びをつくっていこう。
07	福知山の自然やコミュニティの中でしか体験できない思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう
08	働く人が住みやすい街をつくろう そのために、子育てを地域全体でサポートすることが大事
09	多様な働き方、働く目的にこたえる “しごと”と“人”をつなぐ仕組みをつくろう
10	福知山に住みたい希望をかなえられる働く場の確保を大学や企業とも連携しながら、実現していこう

11	意欲ある起業家や地域を支える経営者の 挑戦と創意工夫を、まちぐるみでサポート、育成していこう
12	福知山の魅力、強みを活かして、 儲かる観光業、農林畜産業を目指して盛り上げよう
13	福知山の歴史、自然、文化などの魅力を 日本中、そして世界にむけてアピールしていこう
14	担い手が少なくなってきた時代に対応し、 自治会等の活動を見直し、開かれた運営を行っていこう
15	「やらなければならない」地域活動から、 「やりたい人がやりたいことをやる」地域活動へ変えていこう
16	自動車がなくても、買い物や通院に支障なく 生活ができる仕組みを作ろう
17	身近な場所に拠点をつくり、 様々なサービスを「行く」から「来る」に転換しよう
18	医療や介護をできる限り必要とせず、 健康で生き生きと長生きする「健康長寿」を目指そう
19	一人ひとりが楽しみながら、 様々な場で力を発揮することができる環境をつくろう
20	一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援を できる体制を、地域包括支援センターを中心に構築しよう
21	独居高齢者、老々介護、介護離職など、 様々な介護の事情や社会生活環境の変化をふまえ、 担い手の多様化と地域での支え合いの仕組みを構築しよう

提案 1

生活実感を入り口に、地域のことを「自分ごと」として考えるきっかけとなる対話の場をつくろう

市民懇談会での話し合いを通して、福知山市のいろいろな課題、委員の皆の多様な経験、考え方を知ることができ、そこから様々な課題の解決アイデアが出ました。

自分の意見を言うために考えることで、福知山市の課題を「自分ごと」として捉えられるようになりました。福知山市の課題解決を担う「きっかけ」として、いろんな人がこういう場に参加できる機会をつくっていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

話し合うことでだんだんと課題も見えてくるし、何かしなければ、したいと思うきっかけにもなる。まずは機会が大事で

コロナ禍を経験しているからこそ、思いやりと共存が大切だと感じる。地域とのつながりを積極的に構築していこう。

<個人としてできること>

一人ひとりが「他人ごと」ではなく、小さな意見でも積極的に発言し、自治会や行政への提案や要望を行おう。

今はまちづくりに対する考え方、関わり方、行動を転換するタイミングだと思う。

<地域としてできること>

市民が地域に“関わる”きっかけとなる場があると良い。小中高校生も一緒に進めていきたい。

住民の困りごとを、型にはめ込まず、様々な形で聞き出して、行政に届ける役割を自治会等で担えると良い。

<行政に対して>

市民の意見をしっかりと受け止めて、小さなことでも解決にむけて政策に反映したり、市民と一緒に動いたりしてほしい。

<その他>

市民をどうやって巻き込むかが重要。行政と自治会の間に企業などの第三者が入り、協力してもらうことも考えられるのでは。

学校だけではない学びの場をつくり、 「生きる力」と「困難に対するしなやかさ」を育もう

子どものいじめや不登校にはさまざまな原因とともに、親は気付いてない、学校の中だけで解決できない、不登校となった際に対応できる選択肢が少ないなど、解決面での課題が存在します。

自分の子どもが、学校へ行きたくないと言い出したと想定して、すべての子どもが笑って過ごせる学校となるよう、一人ひとりが「自分たちのまちの学校」の問題と捉え、地域・行政・医療機関等の専門家と連携しながら、人肌感のある「多様な学習機会の場 ― 学校だけじゃない学びの場」をつくり、一人ひとりの「生きる力」と「困難に対応するしなやかさ」を育むために自分たちや地域にできることを学校や専門家と協力して進めましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありましたs

教育を学校や行政まかせにするのではなく、家庭や地域など多面的に考えていくことが重要なのではないか。

家庭内の悩みをどう聞き出し、サポートしていくか。
外にコミュニケーションの機会をつくるにはどうすれば良い

<地域としてできること>

地域コミュニティの中に、子どもが集い悩みを話したり、親たちが話し合いできる場をつくろう。

不登校やいじめを受けた子どもたちの居場所をつくろう

時間的に余裕のある高齢者や大学生が、相談に乗ったり、勉強を教えたりするのはどうだろうか。

心地の良い疎遠感がどのくらいかを考え、程良い距離感で地域活動に参加できるようにしよう。

<行政に対して>

教育機関と医療や福祉機関がしっかりと連携できる体制をつくってほしい。

学校と地域、家庭を上手につなげられるコーディネート力のある教員を育成してほしい。

提案 3

「子育ての話」を気軽にでき、 先入観や「あるべき論」にとらわれず、一人ひとりの個性を いかした子育てができる環境をつくろう

慣れない育児と日常の家事・仕事に追われ、「子どもを連れて買い物や公園に行く」などの自発的な行動を起こしにくくなり、その結果、子育ての相談や悩みを打ち明けられず、ストレスを抱え、社会からの孤立を感じてしまうケースがあります。また、移住してくる若い子育て世帯にとっても子どもの学びに関する必要な情報を入手しにくいという現状があります。

その対策として、子どもを遊ばせながら、気兼ねなく子育てについての相談や交流、情報の共有ができる環境が必要です。また、出生後だけでなく、妊娠期にも必要な支援があり、もれなくサポートしていくことも大切です。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

<個人としてできること>

同じ悩みを持つ親同士のコミュニティは大事。
たとえば障害児を持つ親で、小中学生になってから障害がわかった場合、コミュニティに入りづらく、孤独で悩むことがある。年齢に関係なくつながりを持てる場が必要。

子どもの能力や適性を見極めて、個性を伸ばしたり、選択肢を増やす機会を作ろう。

<地域としてできること>

地域の行事や交流会などを発信し、参加を呼びかけよう。

子ども食堂や親子料理教室などを開催して、親子でゆっくりできる場をつくろう。

パパ同士で話や相談ができるグループを作ろう。

<行政に対して>

子育て世帯の交流や相談に使える公共施設を紹介してほしい。

すでにある子育て支援サービスや教育についての情報を、より積極的に発信してほしい。

提案 4

障害やさまざまな悩みを抱え、孤立しがちな子どもや家族に 市民どうしが互いに関心を持ち、手を差し伸べ、 誰も孤立させない環境をつくろう

障害の内容や障害のある人への理解が不足しています。

発達障害等、一見して分からない障害や、その傾向はあるけれど年齢によっては診断がつかない困難さがある子どももいます。

障害のある人への理解が不十分な社会は、レッテル貼りになってしまうなどして、障害のある人を孤立化させてしまいます。障害の有無にかかわらず、生涯暮らせる環境づくりを進めるにあたり次の3点が必要です。

- ①まずは障害や悩みの内容や障害のある人への理解を深めよう。
- ②個々の課題を社会全体で共有し、個人、地域、学校、社会全体でサポートできる社会の仕組みをつくろう。
- ③人と人とのつながりによる喜びや成功・失敗体験を身近に共有できる機会を増やそう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

<個人としてできること>

当事者の話を聞いたり、講演会に行ったりして、知る努力をしよう。

すべての障害を知っていなくても、障害や何らかの理由で困っている人があるということを知っておくことが大事。

パラスポーツに参加、ボランティアとして支援しよう。

自分もしくは家族のこととして考えてみることで具体的にイメージしてみよう。

<地域としてできること>

当事者や民生委員から話を聞き、どのような障害があり、どのようなことに困っている人があるのか、地域としても把握しよう。

<行政に対して>

障害についての正しい知識や支援の方法を市民に知らせてほしい。

<その他>

企業が障害のある人の採用を積極的に行うことで、障害のある人への理解も進んでいくと思う。

学び続けたい大人たちが、 互いに学び合い、教え合う環境をつくり、 地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくろう

市民懇談会に参加した私たちの多くは、成人であっても、高齢であっても学び続けたいと考えています。福知山市のさまざまな問題の解決のために、身近な仲間たちと互いに学び合い、教え合ったことを活かす場があれば、社会的にも充足し、学びの意欲がさらに高まります。

自らの学びから獲得した知識と、学びのネットワークにより、地域の課題を解決できるコミュニティの実現を目指しましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

目的を持って学ぶことが大事。地域に活かすことができれば学びのモチベーションも湧いてくると思う。

YouTube を見て学ぶことも多い。リモート配信などを活用して学びに参加しやすい工夫をすることができるのではないかな。

<個人としてできること>

自分自身が講師となって経験したこと、学んだことを伝えていこう。

公民館講座を第一歩として、自主サークルを立ち上げるなど学びを深めていこう。

<地域としてできること>

地域主催の学びの場をつくり、学び合い、教え合いのサイクルを構築しよう。

葉っぱビジネスのように、地域のビジネスにつながるような学びを考えてみよう。

<行政に対して>

リアルな公民館講座だけでなく、デジタルを活用した学びの場をつくってほしい。

<その他>

行政まかせにするのではなく、民間に任せる学びと行政が担うべき領域の整理を行うことが大事ではないかな。

提案 6

動画やデジタルを活用した「ICT 教育」を推進し、
一人ひとりの状況にあわせたきめ細やかな学びを実現させると同時に、
生きる力を集団で学ぶ、成熟した学びをつくっていこう。

2040 年を考えると YouTube を見て Amazon を利用するシニアも増えているはず。

子どもたちも、一人一台タブレットが与えられ日常的にデジタルに触れる流れが当たり前になっていますが、同様に、先生や大人たちこそデジタルに触れ学ぶ機会が必要です。

また、子どもたちの学習は、アカデミックなものはデジタルを積極的に活用しレベルに応じた細分化された学習を効率的に進めることが理想的ですが、一方で、災害対応や人権の尊重、コミュニケーション能力などの人間として生きていく力を養うために、集団で学ぶ場も充実させる必要があります。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

<個人としてできること>

福知山市の図書館は、近隣はもちろん京都市と比べても充実していると思う。デジタルも大事だが、アナログな書籍もつかって学びを深めていくことができると良い。

あいさつなど日常的なコミュニケーションも生きる力を学ぶ第一歩なので大事にしよう。

<地域としてできること>

子どもが先生となって、高齢者にスマホの使い方を教えるような学びの場をつくろう。

デジタルに任せられる領域を切り分けた上で、コミュニティでは人間関係の中で得られる学びを築いていこう。

<行政に対して>

ICT 教育を充実させていく一方で、自らの考えを話すことや気持ちを言葉にすることなど、アナログ(リアル)な学びを大切にしてほしい。

デジタルに任せられるものを理解した上で、有効活用する教育を行ってほしい。

<その他>

オンラインを活用した民間のサービスは充実しているので、それらを有効に活用していきたい。

提案 7

福知山の自然やコミュニティの中でしか体験できない 思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに 世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう

福知山には都会的な娯楽は少ないけれど、釣りに行ったり、キャンプしたり、海に行ったり、都会だとお金がかかるものが無料でできます。お祭りも多い、クワガタも取り放題、ホテルも見られるなど、福知山ならではの魅力を見直すことができるのではないのでしょうか。

そうした福知山での思い出を世界に向けて発信することができるよう外国語教育をはじめ、世界に目を向けた学びの機会をつくっていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

子どもの遊び場がないという意見もあるが、遊び方がわかれば自然の中で遊べる場所はたくさんあるのではないかな。

福知山での良い思い出が将来の心の豊かさにつながったり、また帰ってきたいと思えるきっかけになるのではないかな。

静岡と福知山でしか作っていない「ムベ」を世界にむけて発信していきたい。また、「鷹匠」を見るためにわざわざ福知山に来る人もいる。埋もれている価値は必ずある。

<地域としてできること>

ホテルが見られる場所、川遊びができる場所など、福知山ならではの遊び場をマップにしてハンドブック化してはどうかな。

<行政に対して>

地域の方が地域の魅力を伝えるようなカリキュラムがあると良いのではないかな。

<その他>

合計特殊出生率も高く、実は子育てがしやすい街だと考えている。そのことをもっと発信していける。

働く人が住みやすい街をつくろう

そのために、子育てを地域全体でサポートすることが大事

福知山市では女性は家庭優先であるという考え方が根深く残っているという意見が多く出ました。

女性が働きやすく、出産時・育児期にもキャリアアップをはかるためには、家族・地域の中で、男性が積極的に家事・育児に参加しやすい環境と気運を高めるとともに、出産休暇、育児休暇中であつてもキャリアアップを目指せるサポートの仕組み、そして、自宅や市内で自分のスキルを活かした事業を興すフリーランスなどの新しい働き方を促進することが大事です。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

子どもが病気になったときにも預けられる病児保育が市民病院などにあるが知らない人が多い。良いサービスがあつても使われなければもったいない。使われるよう周知した

仕事のキャリアアップの時期と、出産育児の時期は重なるところがある。子育てサポートももちろん大事だけど、企業の理解も重要。女性が働きやすい環境を整えることを奨励する環境をつくることも大事ではないか。

<個人としてできること>

男性ですが、育児休暇を積極的に取得したい。

<地域としてできること>

子ども食堂など、保育園以外でも地域で子どもの面倒をみることができるようにしよう。

父親同士のコミュニケーションの場をつくり、育児の機運をつくっていこう。

<行政に対して>

フリーランスなどの新しい働き方を支援するために、コワーキングスペースなどの仕事ができる場をつくってほしい。

多様な働き方、働く目的にこたえる “しごと”と“人”をつなぐ仕組みをつくろう

いろいろな世代のことを考えると、何のために働くかという目的は多様であると言えます。必ずしも「お金を稼ぐこと」だけではなく、「誰かの役に立ちたい」「新たな成長の機会がほしい」「“しごと”を通じて新たなつながりがあると良いな」など。また、福知山には熟練工が多くおられますが、技術継承ができていないという課題もあります。

一人ひとりが望む働き方や“しごと”をつなぐ、また熟練された技術を次世代につなぐ、マッチングをするための仕組みがこれから重要になってきます。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

福知山市内でも買い物支援や草刈り支援を自治会単位で行っている地域がある。この取り組みがさらに市全体にひろがって、課題がある地域と“しごと”として支える市民がうまれると良いのではないかな。

職業紹介はあるがマッチングについては、今はないと思う。
マッチングそのものが地域の新しいビジネスにもなりうるのではないかな。

＜個人としてできること＞

自分のスキルを見える化しよう。

生涯現役で、自分にできる“しごと”を続けよう。

＜地域としてできること＞

地域の課題も、“しごと”として解決することができないか模索してみよう。

＜行政に対して＞

マッチングという新しい仕組みがどのようにして可能なのか検討してほしい。

シルバー人材センターの名前を変更して、イメージを変えることでマッチング制度に近づけることもできるのではないかな。

福知山に住みたい希望をかなえられる働く場の確保を 大学や企業とも連携しながら、実現していこう

大学等で市外に出たら、京都・大阪等で就職して戻ってこないという状況があります。また、市内で仕事をしたいという思いがあっても、選択できる仕事の幅が少ない現状もあります。

若年層が福知山に帰ってきたい、住み続けたいと思うには、魅力ある「仕事」があるかどうか重要です。福知山の住みやすさや大学の力を活かした企業誘致、または自宅や市内で自分のスキルを活かした事業を興すこと、新しいフリーランスなどの働き方に踏み出すことへのハードルを下げ、働く場をつくっていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

企業にとっては良い労働力を確保できるかどうかという点も事業所を置く際に考える。住みやすい街、住みたい街として良い市民が住んでいる地域にすることが結果的に良い企業が来ることにつながるかもしれない。

<個人としてできること>

空き家をコミュニティオフィスとして提供することができる。

場所にとらわれずテレワークやコワーキングスペースで働ける方法を模索してみよう。

<地域としてできること>

大学生の活動を積極的に支援する。
フィールドワーク等に協力する。

<行政に対して>

福知山の大学生の質を企業にしっかりとアピールできるようにしてほしい。

<その他>

行政、大学、企業が連携して先駆的な取り組みを行うような枠組みがあると良いのではないかな。

意欲ある起業家や地域を支える経営者の 挑戦と創意工夫を、まちぐるみでサポート、育成していこう

過去には近隣の市外からも福知山へ買い物や飲食に来ていた人も多かったのですが、最近では、京都市や大阪市に行って買い物をする状況となり、商業の負のスパイラル（顧客減⇒店舗縮減⇒さらに顧客減）が生じています。

そうした状況を変えるためには「買い手」である私たち一人ひとりの意識を変えていくことも非常に重要です。意欲のある起業家や経営者を応援し、まちぐるみで福知山の産業を育てていこうという機運をつくっていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

会社をまちぐるみで育てるインキュベーションの仕組みが福知山市にはある。図書館内に創業支援の窓口がある。この機能をさらに発展させると良いのではないかな。

＜個人としてできること＞

市内の「良いもの」情報を積極的に SNS などで発信する。

やりたい事業、商売があれば、貪欲に周囲のサポートを活用する。行政に対しても「活用する」という意識を持つ。

＜地域としてできること＞

自治会と地域のスーパー等で連携して、買い物弱者に対する移動販売や荷物を届ける仕組みを考える。

＜行政に対して＞

チャレンジを促していくためにも、失敗した人へのセーフティネットを整えてほしい。

＜その他＞

インターネットを活用した販売や配送の推進、ドローンを活用した商品の配達など、新しい技術を活かしていくことが重要。

福知山の魅力、強みを活かして、 儲かる観光業、農林畜産業を目指して盛り上げよう

福知山市は、福知山城、猪崎城、神社、三段池、烏ヶ岳、二瀬川溪流・鬼嶽稻荷・宝山公園・新橋サンドル公園・上川合の里キャンプ場、大江山、由良川、牧川などの魅力的な観光資源が多くあります。都会に近い田舎、田舎の中の都会として、地理的にも機能的にも観光に適した環境と言えます。

また、京のプレミアム米コンテストで金賞を受賞したお米や、京地鶏、丹波栗など「ふくちやまのエエもん」の自慢できる農林畜産物が多く存在しています。

福知山の魅力を私たちから誇り、発信し、福知山を牽引する儲かる産業に育てていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

<個人としてできること>	福知山の魅力を外から来る目線で掘り起こして、遊びに 来たいと思える体験(農業、川魚漁などの体験など)を考え られると良いのではないか。
<地域としてできること>	どのような特産品があるのかを知って、地産地消を意識 し、まずは自分で食べてみる。
	空き家や耕作放棄地などを活用して福知山の自然と文 化、地形の魅力を活かせる拠点を考えてみよう。
	地域の課題と外から見た魅力、異なるものをつないでみて、 その相互作用を楽しもう。
<行政に対して>	他市町村の成功事例を調査分析し、福知山の参考となる事例 を紹介してほしい。
	市街地、山間地の意識や情報の差を埋めるよう、双方の交流や情 報交換の機会をつくってほしい。

福知山の歴史、自然、文化などの魅力を 日本中、そして世界にむけてアピールしていこう

歴史と文化、自然は福知山の宝だと言えます。

日本の伝統や体験を重視する海外からのインバウンドの取り込みにも重点をおいて、国定公園をはじめとする価値ある自然を保全し、貴重な歴史・文化を伝承し、ハード面とソフト面の両面から、福知山の魅力を磨き上げ、福知山に來たいと思ってもらうため、様々な情報媒体で情報発信を行っていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

市民が思っているよりも福知山の名前は全国的に知られている。そこに良さを載せて、もっとアピールしていくことができるはず。

＜個人としてできること＞

自分の SNS で福知山の情報をフォローしたり、リツイートしたり、発信の主体として積極的に参加する。

＜地域としてできること＞

地域の伝統芸能やイベント等を活性化させるとともに、自分たちだけでなく積極的に発信して外の人にもアピールしていこう。

自衛隊員を地域のイベントに招待し、企画や準備の段階から巻き込んで、一体感を感じてもらうことで、広い地域への口コミを期待できる。

＜行政に対して＞

行政だけでなく発信している市民や団体が一体感を持って福知山の魅力を発信できるような仕掛けを行ってほしい。

＜その他＞

福知山公立大学の学生とともに発信していく。
学生にとっても福知山の良いところを知る機会にもなるし、若い発信力に期待することもできる。

担い手が少なくなってきた時代に対応し、 自治会等の活動を見直し、開かれた運営を行っていこう

人口減少・高齢化が進み、自治会等の担い手が減少している一方で草刈りや祭などの活動は減らない状況があります。役員などの担い手となる人たちの負担感が増えています。また、若い世代が負担感を理由にその地域に住むことを敬遠しているという意見もあります。

自治会等の活動は地域にとって大事なものですが、地域を持続可能なものにするためにも活動を見直すことが必要ではないでしょうか。

特定の役員にまかせた運営から広く地域の人たちが意思決定に関われるように開かれた運営を行うとともに、地域外の人たちの力も借りながら持続性を高めていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

草刈りがとにかく大変。だけど、農作業や祭りとも切り離すことができない地域の中では必要な作業。

地域が大事にしたい行事や作業を重視することで、担い手が減っているのも事実。持続可能にするために何が最適か考えなければならない。

<個人としてできること>

役員を担ってくれる人まかせにせずに、自ら参加し、改善できることを提案することが大事。

自分だけではなく、横のつながりで若手を呼び込んで自治会の若返りをはかっていきたい。

<地域としてできること>

いろいろな人の意見を聞きながら、自治会にとって必要なもの、必須でないものを整理し、可能な限り簡素化していくことを目指そう。

以前から住んでいる人だけでなく、新しい住民を受け入れやすい環境づくりを目指そう。地域活動に参加しない/できない人に対する理解も必要。

<行政に対して>

全市的な動きにするためにも、良い動きをしている自治会の活動を他の地域にも紹介してほしい。

「やらなければならない」地域活動から 「やりたい人がやりたいことをやる」地域活動へ変えていこう

負担感が増している自治会活動の見直し、最適化とともに、一人ひとりにとって「負担」ではなく「楽しい」と思える主体的な活動を行える地域にしていけることが大事です。

地域を「やらなければいけない」「負担」となる活動が多い場ではなく、「やりたいことをやること」ができる地域をつくっていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

やらなければならないことも楽しくできる仕掛けをつくる。
遊び心を大事にして地域での活動を楽しむことが重要。

草刈りも、作業後の BBQ(バーベキュー)が楽しみ！と思えるよ
うな仕掛けができれば印象がガラッと変わるかもしれない。

<個人としてできること>

楽しむためにも住んでいる地域にどんな魅力があるのか、
良いところを見つけていこう。

スポーツをきっかけに関わるなど、自分ができるところからやっ
てみたい。

<地域としてできること>

やりたいことをやれる場に変えるためにも、誰でも意見が
でき、風通しが良い自治会活動にしていけることが大事。

空き家を活用したり、ビジネスにつながる特産品などをつか
って、楽しめるアイデアを考えてみよう。

地域に暮らす全員が「やりたいこと」がある人ではない。
それぞれのペース、距離感での地域との関わりがあるので、
押しつけではなく、多様性を許容する地域でありたい。

<行政に対して>

空き家バンクなど、行政が進めている取り組みと地域の主体的な
活動がうまくリンクするようコミュニケーションをとってほしい。

自動車がなくとも、買い物や通院に支障なく生活ができる仕組みを作ろう

福知山市は、自家用車等の移動手段がない人にとって、日常的な買い物や通院などの移動が不便な状況があります。多くの市民は自家用車を持っているため、不便を感じている市民は少数ですが、自らが高齢者になる、妊娠時には運転ができないなど、移動手段として自家用車を使えなくなる可能性は誰にとっても起こり得ます。

車を運転できない状況になっても生活がしやすいまちを作ること、誰にとっても暮らしやすい福知山市の実現のためには欠かせません。自動車がなくとも、買い物や通院などに支障なく生活できる仕組みを構築しましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

自分が当事者になってみないとわからないことは多い。
いつか来ることもかもしれないので予め体験し、そのときに
不便を感じないように今の行動や周りの環境を変えていこう。

＜個人としてできること＞

公共交通は誰かが乗らないと成り立たない。いざという
きを考えて利用することを考える。

乗り合いタクシーを利用してみる。

＜地域としてできること＞

近所に不便な思いをしている人がいないかを把握し、でき
るサポートを行っていこう。

当番制で免許返納者など移動に困っている人に声を掛け、
車が必要なときは乗り合いで移動しよう。

＜行政に対して＞

乗り合いタクシーの仕組みにおける何かあった際の保険な
ど、地域の助け合いを活かしつつ、いざというときの支えは行政
にも検討してほしい。

＜その他＞

地域のタクシー会社との連携、自動運転車などの新規技術の活用
など、民間企業の知恵を活かせる領域だと思う。

身近な場所に拠点をつくり、 様々なサービスを「行く」から「来る」に転換しよう

自家用車がない人たちの不便さの解消のために、助け合いなどで移動ができる仕組みも重要ですが、併せて買い物や通院などのために出かけるのではなく、身近な拠点でサービスを受けることができるあり方も考えられます。

生活に身近な場所に、地域の人が集まりそこで様々なサービスが受けられる仕組みを構築し、移動への困難さを感じずに暮らすことのできる地域をつくりましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

ICT を活用すれば出掛けずに様々なサービスを受けることが可能。問題は、移動の困難な人と ICT を使うことができない人が同じであること。

地域の高校生や大学生など若い人たちの力を借り、ICT 面でのサポートをすることで、「移動をしなければならない」という課題も解決できるのではない

<個人としてできること>

地域の拠点の活動に、積極的に関わっていこう。

<地域としてできること>

行政のルールで管理する集積所ではなく資源ごみなどをいつでも出せる、ちょっとした買い物や各種手続きができるなど、生活の中でちょこちょこあるサービスを身近に受けられる拠点をつくら

若者と高齢者のどちらかに偏るのではなく、両者が集い、それぞれの得意分野で役割を発揮できる場にできると良い。

サービスが持続するためにも、拠点でのサービスを利用するようにしよう。

<行政に対して>

証明書発行や相談などの行政サービスも市役所に行かなくても地域の拠点で受けられるような改革をしてほしい。

医療や介護をできる限り必要とせず、 健康で生き生きと長生きする「健康長寿」を目指そう

私たちは、健康に関し様々な不安を抱えています。運動不足で、将来的に寝たきりになってしまうのではないか、食べることが楽しみでどうしても塩分や脂肪を取りすぎてしまい、病気になってしまうのではないか、など。また、自分自身の事ではなくても、市外に暮らす高齢の親、一人暮らしの子どもなど、家族や大切な人に対しても、食事がきちんとできているのかなど不安を抱えています。

一方で、仕事や家事、育児などで日常は多忙で、運動や食生活に気をつけられない人や、自分は大丈夫と過信している人も少なくありません。

健康に関心のある人、無関心な人など人さまざまですが、しっかりと自分自身や家族のことを見つめ直し、将来を見据えて今の健康を一人ひとりが考えていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

車社会なので自分の力で動くことは少なく、運動することがハードルの高い行動となっている。日常生活のなかで動かなければいけないような環境をつくれれば自ずと運動機会は増えると思う。

<個人としてできること>

病気になった直後は体調に気をつけて生活習慣を変えていたが、少し経つとともに戻ってしまった。自分の健康状態をこまめに把握することができれば健康に対するモチベーションも維持することができると思う。

<地域としてできること>

一人暮らしの食生活は課題。近所の一人暮らしの方や離れて暮らす家族の食生活も気にかきたい。

男性も含めて誰でも参加できる料理教室や食生活改善教室を地域で開催しよう。

<行政に対して>

福知山マラソンのように市民が参加するスポーツの機会を充実させてほしい。

<その他>

減塩、糖質削減など民間企業の商品としても充実している。
健康維持のための運動や食事管理のサービスもある。
広く市民が効果的に活用して健康な福知山を目指したい。

一人ひとりが楽しみながら、 様々な場で力を発揮することができる環境をつくろう

「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。」

WHO 憲章では、健康を、「肉体的な充実」と「精神的・社会的な充実」とに分けています。いくら肉体的に充実し、長寿を達成したとしても、そこに何ら生きがいを感じないのでは、「健康」であるとは言えないのです。

精神的にも社会的にも充実し、生きがいをもって、いきいきと活動ができる環境をつくっていきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

<個人としてできること>

面白いこと楽しいことがあれば生きがいができるのでは。
地域活動が面白くないと思っている人は多い。面白いと感じられる仕掛けづくりが大事なかもしれない。

<地域としてできること>

Zoom での会議を通じて、身近な人と少し離れた人ともつながりを持てるというヒントを得た。いろんな人が地域の活動を楽しむための仕掛けとして有効だと思う。

自治会活動をしていると高齢になっても人とのつながりに困ることはない。ネガティブだけでなくポジティブに捉えることも大事ではないか。

<行政に対して>

一人ひとりができることを、他の人や地域の課題解決につなぐ“スキルバンク”の仕組みを検討してほしい。

一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援を できる体制を、地域包括支援センターを中心に構築しよう

医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で最後まで自分らしく生活が続けられるためには、家族の協力、介護力の充実、切れ目のない医療と介護の供給体制が不可欠です。また、生活困窮、孤独・孤立状態、就労支援など市民の困りごとは多岐にわたり、これまでの給付を中心としたセーフティネットに加えて、やる気のある人を社会全体で支える仕組みが求められています。

自治会、民生児童委員、介護福祉事業者、行政、地域包括支援センターなどが一体となって、一人ひとりが抱える問題に寄り添い、解決に向けた支援を、地域ごとに構築できる仕組みが必要です。

地域包括支援センターを中心として、高齢者に限らず障害のある人、子育て世代を含めた一人ひとりに寄り添ったきめ細かなサービスを提供していきましょう。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

一人ひとりにきめ細かくという理想がある一方、現実的には各家庭にこもっている方たちを見つける、アクセスするということに難しさがある。

経験的な話だが、大まかなところは行政に、身近なところが民生児童委員にアドバイスを受けたことがある。

<個人としてできること>

介護をする/してもらうことを見越して、介護が必要な人にもどのようなニーズがあるのか把握する。

<地域としてできること>

自治会や民生児童委員が地域包括支援センターとの連携をとって活動していこう。

<行政に対して>

困りごとの内容に関わらず、ワンストップで受け、様々な機関が連携して問題を解決する体制を築いてほしい。

入院、入所、レスパイトといった在宅での介護を補完できる仕組みをニーズにあわせて充実させてほしい。

独居高齢者、老々介護、介護離職など、 様々な介護の事情や社会生活環境の変化をふまえ、 担い手の多様化と地域での支え合いの仕組みを構築しよう

一人で両親二人をみる老々介護は目の前に迫りつつあります。また、現役で仕事を続けながら介護をする必要があったり、介護のために職を離れざるをえなかったりと、介護の事情はより複雑化、困難化している現状があります。また、介護者のいない一人暮らしの要介護者の増加、介護者や要介護者の孤立化もあります。

介護する人もされる人も、日常生活の過剰な重荷とならない持続可能な介護を進めていくためには、地域（ご近所）の力が不可欠です。

担い手不足の解消や新たな担い手の創出として、行政、関係機関、社会福祉協議会、ボランティア、NPO などが連携を強化し、家族のつながりや地縁の希薄化への対応、ヤングケアラーなど若い世代を含めた視点、地域住民をはじめとする多様なつながりによる日常の生活を支え、自立を支援するための生活サービスの提供など、負担軽減やの質が向上する持続可能な取り組みが必要です。

「市民懇談会」では、こんな声がありました

＜個人としてできること＞

民生児童委員が地域と行政のつなぎ役として大きな役割を果たしているが、担い手の高齢化、次世代の不足などの課題を抱えている。

＜地域としてできること＞

困ったときに頼ってもらえるように、回覧板や買い物のついでなど、日頃から気軽に挨拶、声掛けをする。

いざ介護が必要になる以前から、多様なつながりを持つておくことが重要。そのためにも地域の活動に参加することは大事だと考える。

地域にどのような人が住んでいて、どういう困りごとがあるのか把握しておこう。

＜行政に対して＞

自治会や民生児童委員と連携し、行政と地域が一体的に介護を進められる体制を築いてほしい。

6 まちづくり構想を市民とともに実行・評価していく体制

本構想については、多くの市民で構成する市民懇談会を立ち上げ、「4人のペルソナ(人物像)」を通して、市民生活にかかる様々な分野における社会的リスクを市民といっしょに考えることからはじめ、市民とともに構想づくりを行いました。

今後、2040年を念頭に置きながら、行政が取り組むまちづくり、市民が取り組むまちづくりの方向性を整理した本構想の実行にあたっては、市民と行政が協働して取り組んでいくとともに、不断に実行状況の確認を行っていく必要があると考えています。

市民が取り組むまちづくりの推進にあたっては、市民による実施の体制を整備していく必要があります。

また、市が取り組む施策については、庁内の各部署において検証を行うとともに、市民による検証も行っていたいただき、市民の幸せの達成に向けて努めていきます。

7 おわりに